

越知町埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

女川遺跡Ⅱ

(高知県高岡郡越知町)

1999. 3

高知県越知町教育委員会

女 川 遺 跡 Ⅱ

越知町埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

1999. 3

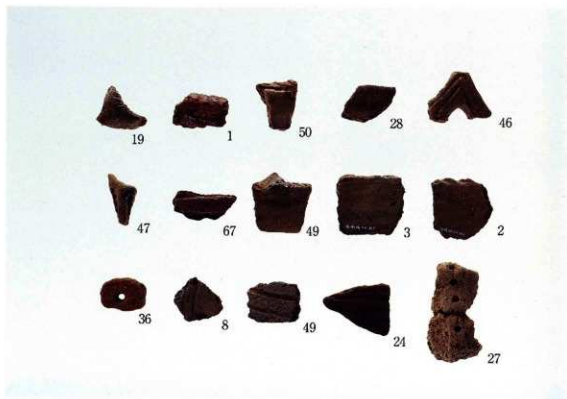
高知県越知町教育委員会



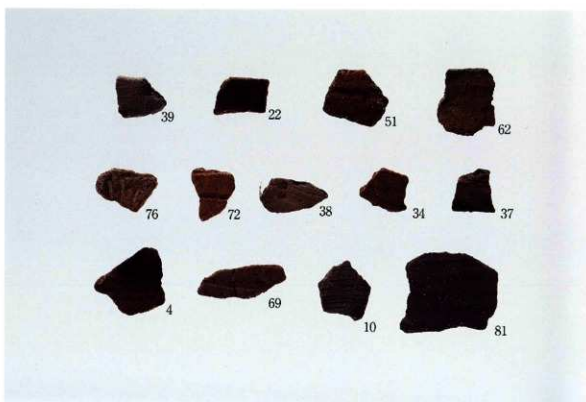
ST1完掘状態（北より）



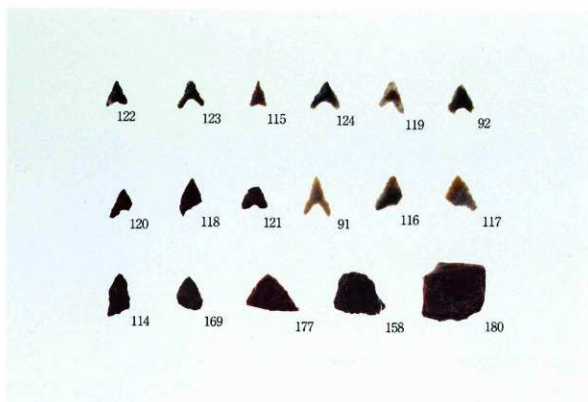
同上（南より）



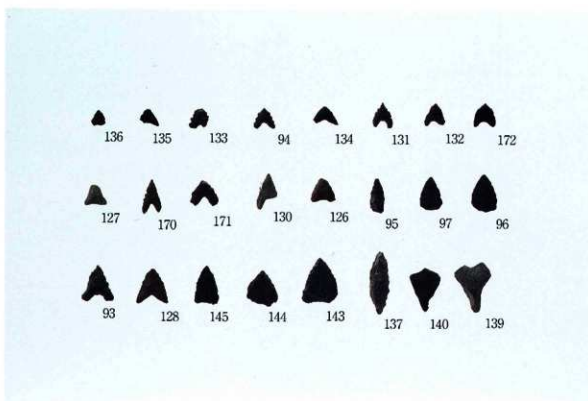
出土遺物 1 (縄文土器)



同 上



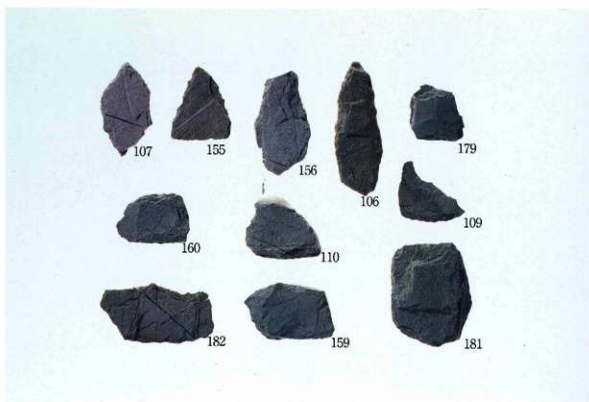
出土遺物 2 (石器)



同 上



出土遺物 3 (石器)



同上

序

越知町は、中山間地域から山間地域へ移行する地域にあり、標高300メートルから1,000メートルの石籠山系の支脈に囲まれ、西方に横倉山県立自然公園を仰ぎ、その間を仁淀川が西から東に流れています。

町のシンボルとして親しまれている横倉山は、日本で最も古いシルル紀を示す4億年前の地質であり、クサリサンゴや三葉虫などの化石が発見されています。

越知町教育委員会では、平成7年度に町の開発事業にともない緊急発掘調査を実施して、縄文・弥生時代の石器・刺片類から中世・近世の遺構・遺物が確認されました。なかでも弥生時代のガラス製品、石器製作跡に関連する遺構・遺物の発見があり、より明確に把握するために学術調査を実施いたしました。その結果、歴史を解明していくうえで貴重な資料が得られました。

本書は、その発掘調査の成果をまとめたものです。今後広く利用され、文化財保護および学術研究の一助になれば幸いと存じます。

最後に、調査・報告書の作成にあたって奈良国立文化財研究所遺物処理研究室長 肥塚隆保氏、(財)高知県埋蔵文化財センター曾我貴行氏を始め、ご指導いただきました高知県教育委員会、(財)高知県埋蔵文化財センターそして調査にご協力を頂いた地権者、地元関係者及び地域住民の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成11年3月

越知町教育委員会

教育長 片岡重敦

例 言

1. 本書は遺跡確認調査に伴う、女川遺跡の発掘調査報告書である。
2. 女川遺跡の所在地は、高知県高岡郡越知町女川北屋敷ほかであり、本次の調査対象地の所在地は越知町越知字東屋敷甲824番2である。
3. 発掘調査対象面積は553㎡、発掘調査面積は225㎡である。調査期間は平成9年2月27日～3月31日である。
4. 発掘調査及び整理作業は財団法人高知県文化財埋蔵文化財センターの指導を得て、越知町教育委員会が実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査員 曾我貴行（財団法人高知県文化財埋蔵文化財センター・調査員）
調査事務 戸田千秋（越知町教育委員会・社会教育係長）
同 千頭由香（越知町教育委員会・主幹）
5. 本書の執筆・編集は曾我がおこなった。
6. 遺構等については、適宜それぞれST（堅穴住居跡）、SK（土坑状遺構）、P（ピット状遺構）、TR（トレンチ、試掘溝）等の略号で表記した。遺構番号は本次調査における通し番号である。
7. 遺物実測図の縮尺は土器が1/3、石器類が1/1及び1/2である。挿図及び図版中の番号は実測図の番号と一致している。
8. 出土遺物の色調については、『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
9. Fig. 1は国土地理院1:25,000地形図「大崎」,「越知」を使用した。
10. 遺構測量は任意座標でおこない、挿図中の北は磁北である。また挿図中のレベル高は海拔高を示す。
11. 発掘調査に際しては、当該土地所有者である大原喜久子氏・藤原牧子氏の全面的な御協力を賜り、調査を円滑にまた有意義に遂行することができた。記して衷心より謝意を表す。
12. 出土した水晶小玉については、肥塚隆保氏（奈良国立文化財研究所遺物処理研究室長）を煩わせ、蛍光X線分析結果ならびに材質に関する御教示を賜った。記して衷心より謝意を表す。なお、分析結果については、第IV章に掲載した。
13. 発掘作業においては、大原組、社団法人佐川・越知・日高広域シルバー人材センターならびに、越知町及び近隣にお住まいの方々の御協力を得た。また発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を賜り、整理作業においては財団法人高知県文化財埋蔵文化財センターの整理作業員の皆様の御協力を得た。記して衷心より謝意を表す。
14. 整理作業に際しては、次の方々にご尽力いただいた。御芳名を記して衷心より謝意を表す。

川井由香 池本 恵 内村富紀
15. 遺跡の略号は「96-54OG」とし、出土遺物の注記等にはこれを使用した。
16. 出土遺物等は越知町教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第Ⅲ章 調査の方法	4
(1) 調査の目的	4
(2) 調査の方法	4
第Ⅳ章 調査の成果	8
(1) 層序	8
(2) 遺構	8
(3) 遺物	18
第Ⅴ章 総括	37

挿図目次

Fig. 1	女川遺跡と周辺の遺跡 (S : 1/25,000)	3
Fig. 2	女川遺跡調査区範囲図 (S : 1/500)	5
Fig. 3	調査区グリッド割り図 (S : 1/200)	7
Fig. 4	女川遺跡全体図 (S : 1/100)	9-10
Fig. 5	土層断面図 (S : 1/40)	11-12
Fig. 6	ST1 (S : 1/60)	14
Fig. 7	ST1-SK1 (S : 1/30)	15
Fig. 8	ST1-P1-P7 (S : 1/20)	15
Fig. 9	P1-P7 (S : 1/20)	17
Fig. 10	遺構出土遺物 (土器)	19
Fig. 11	包含層出土遺物 (土器・土製品)	21
Fig. 12	包含層 (トレンチ) 出土遺物 (土器・土製品)	22
Fig. 13	包含層 (トレンチ) 出土遺物 (土器)	23
Fig. 14	包含層 (トレンチ) 出土遺物 (土器・土製品)	24
Fig. 15	ST1 出土遺物 (石器)	25
Fig. 16	ST1 出土遺物 (石器)	26
Fig. 17	ST1 出土遺物 (石器)	27
Fig. 18	包含層出土遺物 (石器)	28
Fig. 19	包含層出土遺物 (石器)	29
Fig. 20	包含層出土遺物 (石器)	30
Fig. 21	包含層出土遺物 (石器)	31
Fig. 22	包含層 (トレンチ) 出土遺物 (石器)	32
Fig. 23	包含層 (トレンチ) 出土遺物 (石器)	34
Fig. 24	包含層出土遺物 (玉類・銭貨)	35
Fig. 25	水晶小玉チャート	36

表 目 次

表1	女川遺跡と周辺の遺跡一覧	2
表2	土器・土製品観察表1	40
表3	土器・土製品観察表2	41
表4	土器・土製品観察表3	42
表5	土器・土製品観察表4	43
表6	石器・石製品・金属製品観察表1	44
表7	石器・石製品・金属製品観察表2	45
表8	石器・石製品・金属製品観察表3	46
表9	石器・石製品・金属製品観察表4	47
表10	石器・石製品・金属製品観察表5	48
表11	石器・石製品・金属製品観察表6	49
表12	石器・石製品・金属製品観察表7	50

図版目次

- 巻頭図版 1 ST1完掘状態
- 巻頭図版 2 出土遺物 1 (純文土器)
- 巻頭図版 3 出土遺物 2 (石器)
- 巻頭図版 4 出土遺物 3 (石器)
- P L. 1 調査前状況
- P L. 2 調査状況・表土除去
- P L. 3 調査状況・トレンチ調査
- P L. 4 トレンチ完掘状態
- P L. 5 調査状況・グリッド調査
- P L. 6 調査状況・土壌選別, Fライン南壁土層断面
- P L. 7 ST1内堆積土層断面, ST1内ベルト除去状態
- P L. 8 ST1遺物出土状態
- P L. 9 東壁土層断面
- P L. 10 深掘りトレンチ, 同上堆積土層断面
- P L. 11 調査状況・遺構調査
- P L. 12 遺構完掘状態
- P L. 13 ST1完掘状態
- P L. 14 ST1完掘状態, ピット状遺構完掘状態
- P L. 15 ST1-SK1検出状態, 同上完掘状態

第I章 調査に至る経過

女川遺跡は、高知県高岡郡越知町女川北屋敷ほかに所在する、縄文時代から近世の遺跡である。昭和51年刊行の『全国遺跡地図 高知県』の時点ですでに埋蔵文化財包蔵地として記載され、認識されていた。縄文時代遺物の多く採集される地点として知られた遺跡であり、縄文時代後期を主とする石鏃・石槍・石斧・石核・剥片・縄文土器、ならびに土師器・須恵器片などが採集されている。石器石材はサヌカイトが多い一方、姪島産黒曜石もみられるとされ、また縄文土器は縄文時代後期の宿毛式土器・平城式土器の採集が知られている。⁽¹⁾

その後、平成4～5年度に実施された高知県遺跡詳細分布調査一高岡ブロックの際、再度の現地踏査を経て、女川遺跡の範囲、年代等、遺跡台帳の整備がなされた。この折にも石鏃等が採集され、関係者らの女川遺跡への関心は高まりつつあった。そして平成7年度、折しも女川遺跡内での種々の開発事業が間近に迫った越知町教育委員会は、女川遺跡に関する初の確認調査に着手した。これが女川遺跡の第1次発掘調査であり、越知町主体による埋蔵文化財の発掘調査第1号であった。全国的にも珍しい弥生時代のガラス製品はこの時に出土した。ほかにも、縄文・弥生時代における多数の石器・剥片類の出土は、石器製作跡の存在を予見させるものであったし、地元横倉山産出とみられる凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）製の石器・剥片類の多数の出土は、石器素材における地域性を示唆する重要資料であった。そしてこれら第1次調査の有意義な成果を踏まえて、開発事業に関連する第2次、第3次の発掘調査を継続的に実施してきた。第2次、第3次調査では、主に中世・近世の遺構・遺物が多く確認でき、女川遺跡の中世・近世の姿にアプローチするべく、資料の蓄積がなされた。

平成7年度の3次にわたる発掘調査を実施して、越知町ひいては高知県の文化財行政における重要な課題が提起された。それが、第1次調査で確認されたガラス製品、及び石器製作跡に関連する遺構・遺物の追究であった。平成8年度、越知町教育委員会はこの課題に対処すべく、国庫補助金を導入し、女川遺跡確認調査として発掘調査を実施する運びとなった。発掘調査は財団法人高知県文化財埋蔵文化財センターならびに高知県教育委員会の指導のもと、越知町教育委員会が実施した。発掘調査期間は平成9年2月27日～3月31日で、3月20日には調査成果の現地説明会を開催した。調査対象面積は553㎡、発掘調査面積は225㎡であった。

註

(1) 越知町史編纂委員会『越知町史』高知県高岡郡越知町 1984年

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

女川遺跡は高知県高岡郡越知町女川北屋敷ほかにあり、本次調査対象地の所在地は越知町越知字東屋敷甲824番地2である。女川遺跡の所在する高岡郡越知町は、東西に長い高知県の中西部にあり、県下第2の流長を有する仁淀川の中流域に位置している。仁淀川と支流・桐見川との合流点から南東側一帯が、町の中でも人口の集中する越知である。

越知町における遺跡の分布には2つの特色が看取できる。1つは越知とその周辺における縄文時代及び中世の遺跡の集中分布であり、いま1つは町内北部の片岡周辺における中世の遺跡の集中分布である。女川遺跡は前者、すなわち縄文時代及び中世の遺跡の集中する地域の一角に位置している。

女川遺跡をとりまく縄文時代遺跡には、下渡遺跡、中町遺跡、城戸遺跡、文徳遺跡、そしてやや離れるが遊行寺遺跡、西岡遺跡、清水遺跡などを挙げることができる。下渡遺跡は、谷1つを隔てて女川遺跡西方に位置する遺跡で、縄文時代早期の押型文土器などが採集されており、越知町内最古の遺跡の1つである。中町遺跡では石鏝が採集されており、縄文時代後期と位置付けられている。城戸遺跡はサヌカイト碎片が採集された遺跡で、ほかに石鏝多数が採集されているようである。桐見川左岸に位置する文徳遺跡は、縄文時代早期の押型文土器の採集が知られる遺跡で、下渡遺跡と並んで越知町内最古の遺跡の1つである。文徳遺跡では他にも縄文晩期土器や石器等が採集されている。その上流、桐見川右岸に位置する遊行寺遺跡では、チャート剥片が採集されている。仁淀川左岸の丘陵部に位置する西岡遺跡では、チャート剥片及び破片が採集されている。また標高約320mの山腹緩傾斜面にある清水遺跡では、石鏝・石錐・石斧片などが採集されており、縄文・弥生時代の遺跡と考えられている。

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
★	女川遺跡	縄文・弥生・中世・近世	8	文徳遺跡	縄文-古墳・近世	16	中町遺跡	縄文
1	清水遺跡	縄文・弥生・中世	9	遊行寺遺跡	縄文・近世	17	馬ヶ崎城跡	中世
2	本村遺跡	弥生・中世	10	柴尾遺跡	古墳・中世	18	城戸遺跡	縄文
3	西岡遺跡	縄文・近世	11	天忠寺跡	中世	19	清水城跡	中世
4	ヤケ坂遺跡	弥生	12	柴尾城跡	中世	20	下渡遺跡	縄文・中世
5	後山城跡	中世	13	木倉通遺跡	古墳	21	東光寺跡	中世
6	文徳城跡	中世	14	越知遺跡	弥生			
7	文徳古墓	中世	15	西ノ芝遺跡	中・近世			

表1 女川遺跡と周辺の遺跡一覧

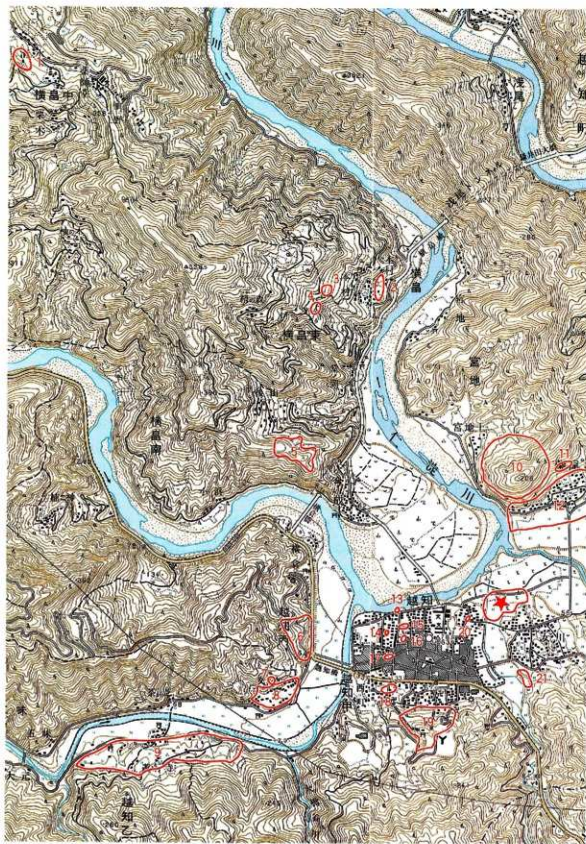


Fig. 1 女川遺跡と周辺の遺跡 (S: $\frac{1}{25,000}$)

第三章 調査の方法

(1) 調査の目的

第I章に記したとおり、本次の調査には明確な目的があった。すなわち、

- ① 弥生時代のガラス製品に関連する遺構・遺物の追究
- ② 凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）を素材とする石器製作跡関連の遺構・遺物の追究

の2点である。そしてこれらを含めて、縄文・弥生時代の女川遺跡に接近することが本次調査の目的であった。

(2) 調査の方法

1. 調査範囲の選定

本次調査の対象地点は、越知町越知字東屋敷甲824番地2である。ここは、平成7年度の第1次発掘調査において弥生時代のガラス製品ほかが出土した試掘坑T P10を含んでおり、調査前の現況は旧畑地にうっすらと盛土（砕石等）が敷かれた状態であった。

当初は、最大に対象地点全域についての発掘調査を実施する予定であったが、上記の調査目的に則した解答を抽出するため、また限られた条件の中で有意義な調査を遂行するために、目的上重要な箇所から優先的に発掘・記録作業をおこない、同一の優先順位に従って調査範囲の拡張をおこないつつ、調査を進める方策をとった。結果的には、第1次発掘調査の試掘坑T P10の周囲から着手し、ここから西方へ環状に広げていく形となり、対象地点全域を完掘するには至っていない。

2. 調査の方法

本次の調査目的に対応するためには、フルイによる乾燥土壌選別を欠くことはできなかった。その理由は第1に、女川遺跡の遺物包含層の大半を占める黒色土が、湿潤状態で遺物に付着すると遺物の視認性を著しく低下させる土質であったため、微細といわれる遺物でなくとも逸してしまう恐れがあったこと。そして第2に、第1次発掘調査の試掘坑T P10から出土した石器製作に伴う碎片は、一辺3mmの網目のフルイを用いなければ採集できないような5mm以下の微小なものであり、同時にガラス製品関連の遺物も同様の微小なものまで把握・採取する必要があったためである。

従って、本次調査では徹底してフルイによる乾燥土壌選別を実施した。それは以下に記すように清掃廃土にまで適用し、本次に掘削した遺物包含層に含まれる遺物の悉くを採取することを目指した。かりに乾燥土壌選別ではなく、水洗土壌選別によれば、より違った結論を導けるかも知れないが、当初から実現性の低い選択肢であったため、本次の調査方法からは除外した。

以下、調査方法について、(1) 掘削方法、(2) 土壌選別方法の2つに分けて記す。

(1) 掘削方法

- ① 重機（バックホー）を使用して、客土（盛土部分）及び表土層（遺物包含層上部、ならびに攪乱部分）を掘削・除去する。
- ② 重機掘削の完了部分について清掃をおこない、人力掘削開始面としてブルーシートで被覆・

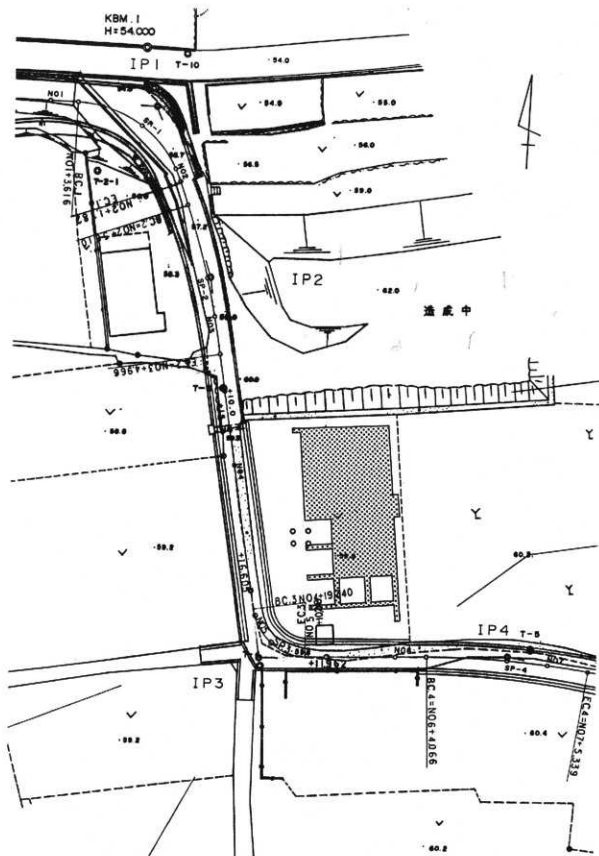


Fig. 2 女川遺跡調査区範囲図 (S : $\frac{1}{500}$)

保護する。(他所からの遺物の混入を防止する)

- ③ 調査区東壁に沿った南北方向の試掘溝 (Aトレンチ, 幅50cm), 及び調査区北壁に沿った東西方向の試掘溝 (Bトレンチ, 幅50cm) を設定し, 人力によりV層上面まで掘削する。
- ④ 調査区の形状にあわせた任意座標を設定し, これに基づく一辺4 mの方眼区画 (グリッド) により調査区を分割する。(Fig. 3) 座標北は, 磁北に対して $N-5^{\circ}19'20''-E$ の関係にある。
- ⑤ 各グリッドの北辺・東辺沿いに幅50cmの試掘溝 (トレンチ) を設定し, 人力によりV層上面まで掘削する。調査区北辺・東辺沿いに位置するグリッドは, Aトレンチ, Bトレンチに接するため, それぞれに替えることとし, 重複設定しない。A-1, B-1, C-1, C-5, D-1, D-5, E-1, F-1, G-1グリッドはこれらに該当せず, またG-2, G-3グリッドは北辺トレンチのみ掘削する。
- ⑥ ③・⑤のトレンチ内及び人力掘削開始面の清掃をおこなう。再び, 人力掘削開始面としてブルーシートで被覆・保護する。
- ⑦ 各グリッドをトレンチ調査の成果に基づく優先順位に従って順次掘削する。掘削に際してはⅡ～Ⅳ層の分層はもとより, 層厚の厚いⅡ層を厚さ約15cm単位で2～3つに分層しておこなった。分層したⅡ層は, それぞれⅡ-1分層～Ⅱ-3分層と呼称した。分層の境界線は各グリッド個別のもので, グリッド間共通ではなく, また地形の傾斜を考慮して水平でもない。
- ⑧ グリッド掘削後, V層上面の清掃・遺構検出をおこなう。
- ⑨ 検出遺構を掘削する。ST1-SK1については, 遺構埋土を厚さ約10cmで3つに分層し, 掘削する。
- ⑩ 完掘に伴う清掃をおこなう。
- ⑪ 東壁沿いに深掘りトレンチ1箇所を設定し, 掘削する。

(2) 土壌選別方法

- ① 「掘削方法③」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)
- ② 「掘削方法⑤」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)
- ③ 「掘削方法⑥」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)
- ④ 「掘削方法⑦」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)
- ⑤ 「掘削方法⑧」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)
- ⑥ 「掘削方法⑨」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺3mm)
- ⑦ 「掘削方法⑩」に伴う掘削土壌の選別をおこなう。(フルイの網目: 一辺5mm)

また, 以上の手順を有効なものとするため, 次の点に留意した。

- ① 掘削作業にかかるグリッド以外はブルーシートで被覆・保護し, 通行に伴う遺物の混入を防止する。
- ② 土壌選別用の土壌は, 当日の作業終了段階でブルーシートで被覆・保護し, 他の土壌からの遺物の混入を防止する。

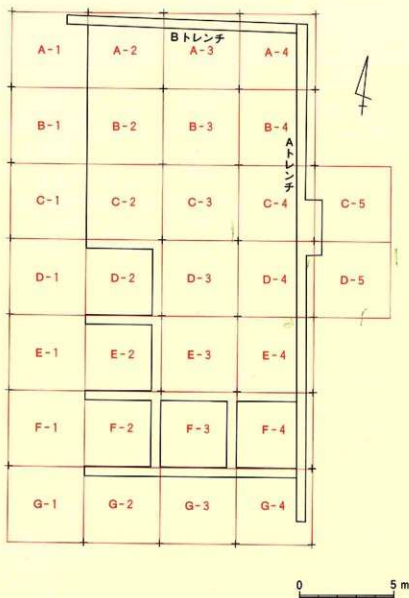


Fig. 3 調査区グリッド割り図 (S : $\frac{1}{200}$)

なお、遺物出土状況の写真撮影、遺構の検出状態・完掘状態の写真撮影等を随時おこない、堆積土層断面図 (縮尺: 1/20)、遺構平面図 (縮尺: 1/20)、調査対象地範囲図 (縮尺: 1/100) 等を作製した。

第Ⅳ章 調査の成果

(1) 層序 (Fig. 5)

本次の調査において確認された層序は、第Ⅰ層：耕作土、第Ⅱ層：暗褐色土、第Ⅲ層：黒色土、第Ⅳ層：黒色土・黄色粘質土混、第Ⅴ層：橙黄色粘質土、第Ⅵ層：暗黄褐色粘質土、第Ⅶ層：黄色粘質土である。

第Ⅰ層の表土層から第Ⅳ層までが遺物を含む層であり、第Ⅴ層以下からは遺物は検出されない。第Ⅱ層は多量に遺物を含んでいるが、近代以降の攪乱層であり、これが一定期間を経て表土化したものが第Ⅰ層である。第Ⅰ層上には砕石等の客土が存在していたが、これと第Ⅰ層の殆どを重機掘削により除去し、第Ⅱ層以下を人力掘削の対象とした。同時に人力掘削対象の土壌すべてについて、乾燥土壌選別を実施した。そして、土壌選別の網にかかったすべてのものを持ち帰り、洗浄作業の後に分類した。

第Ⅱ層は平均30～40cmの層厚をもっており、調査の過程においては、一定の純粋性を予想していたため、約15cm（プラスマイナス5cm）を単位として分層し、取り扱うこととした。第Ⅱ層の層厚はグリッドによって異なるため、分層の境界線は一定でなく、むしろ、各分層の層厚を揃えることを目指した。

第Ⅲ層・第Ⅳ層は、第1次調査以降、本次調査の終盤に至るまで、未攪乱の遺物包含層と捉えていたものであるが、竪穴住居跡ST1を確認するに至り、住居跡内埋土の未攪乱部分と判明した。すでに第Ⅲ層・第Ⅳ層として一定量の遺物を取り上げた後であったため、層名は変更せず、これを踏襲することとした。第Ⅲ層はいわゆる「黒ボク土」である。第Ⅳ層は第Ⅲ層と第Ⅴ層との漸移層部分である。第Ⅴ層はアカホヤ火山灰起源と考えられる、いわゆる「黄音地」層であり、この上面において遺構検出作業をおこなった。上記した近代以降の攪乱行為（樹木の抜根痕か？）は第Ⅴ層にまで達しており、また竪穴住居跡の掘り込みの深さからみても、第Ⅴ層上面はそのまま旧地表面とはならない。

本次調査では無遺物の第Ⅴ～第Ⅶ層の堆積の下面に、段丘礫層とみられる円礫主体の堆積が現れる。本次調査地点における層序は、中位段丘上に位置するとされる越知・女川周辺の典型的な堆積状況を示しているものと考えられる。⁽¹⁾

(2) 遺構

第Ⅴ層上面において、竪穴住居跡1棟（土坑状遺構1基、柱穴7基）、ピット状遺構（柱穴）7基の遺構を検出した。以下、遺構について記し、遺構出土の遺物については、他の遺物と併せて次節に記すこととする。

1. 竪穴住居跡ST1

(1) 竪穴住居跡ST1 (Fig. 6)

本次調査区のほぼ中央、東壁に接して遺構の約半分を検出することができた。平面形は円形とみ

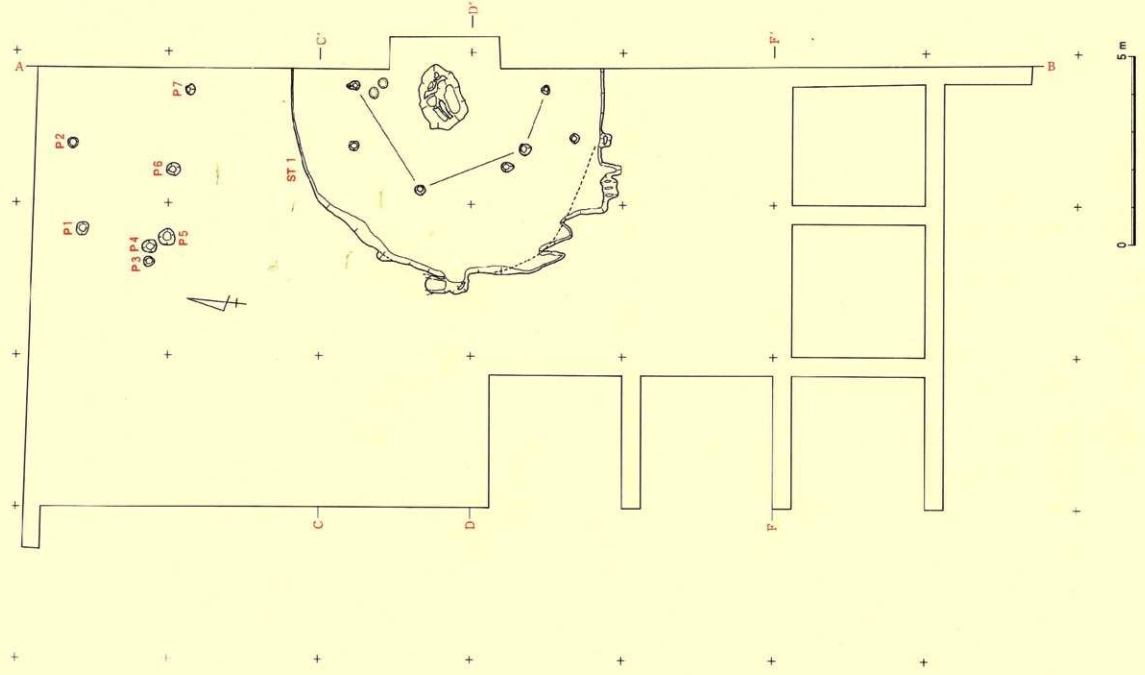


Fig. 4 女川遺跡全体図 (S : 1/100)

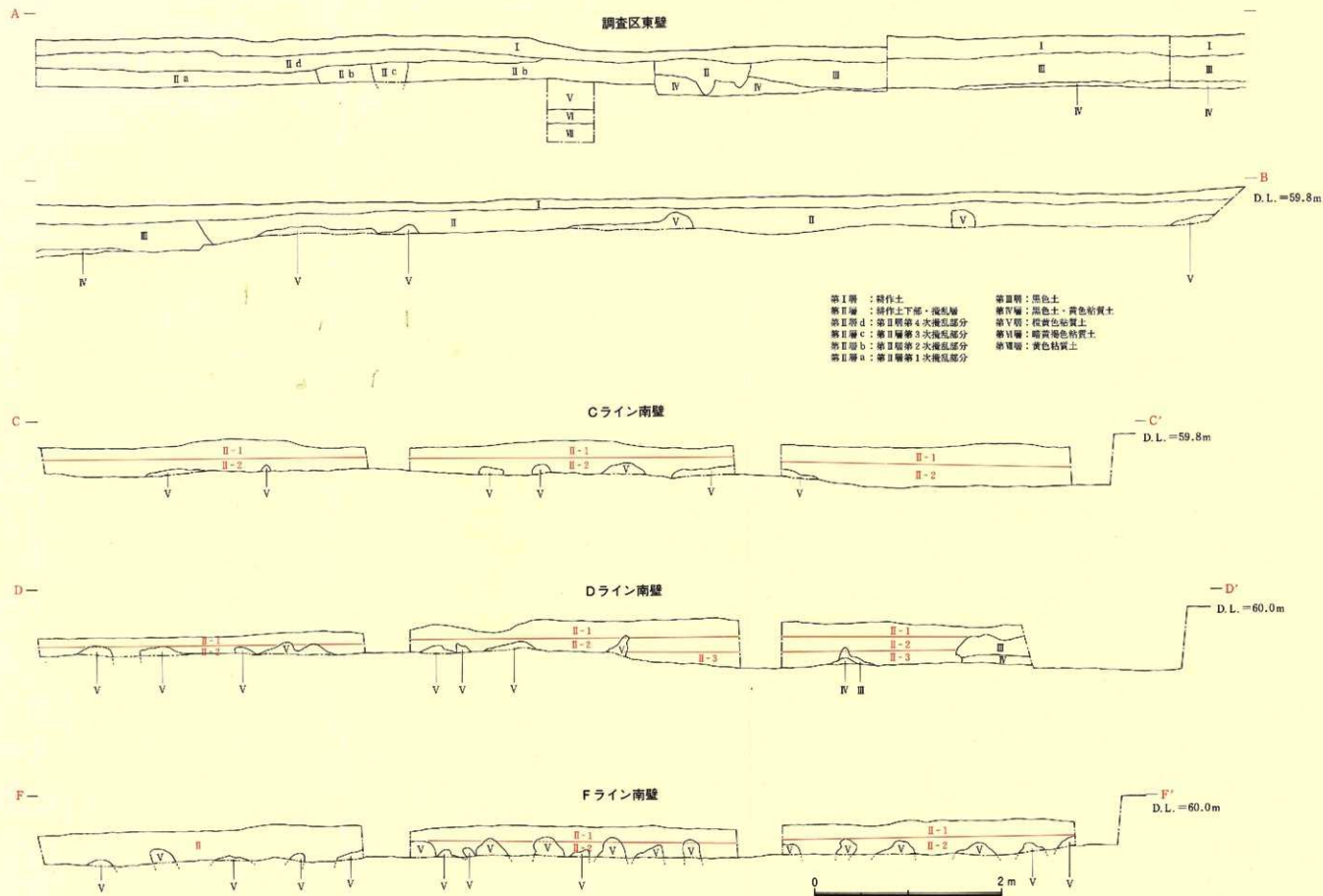


Fig. 5 土層断面図 (S: 1/40)

られ、直径8.25m、検出面からの深さは10～15cmである。攪乱のため掘り方は乱れている。埋土は第Ⅲ層：黒色土、第Ⅳ層：黒色土・黄色粘質土混であるが、遺存範囲は限られる。

床面上で土坑状遺構1基、柱穴7基を検出した。これらについては次項で記すが、支柱穴は6本(以上?)と考えられる。

遺物は縄文土器、弥生土器、及び石器多数が出土しており、縄文土器11点、弥生土器3点、石器23点を図示した。(Fig. 10・15～17)

ST1は弥生時代前期の遺構と考えられる。

(2) ST1内の遺構

① 土坑状遺構SK1 (Fig. 7)

ST1内のほぼ中央に位置する中央土坑である。平面形は不整楕円形で、長径1.74m、短径1.10m、ST1床面からの深さは34cmである。掘り方の断面形態は舟底形を呈する。遺構床面には2つの段があり、複雑な形状をなす。埋土は暗褐色土の単一層である。

遺物は縄文土器、弥生土器、石器等が出土しており、弥生土器3点、石器1点を図示した。(Fig. 10・16) 出土遺物には石器製作に伴うとみられる剥片・碎片等が多くみられ、石器製作の中心に位置する遺構と考えられる。

② 柱穴P1 (Fig. 8)

平面形は不整卵形で、長径32cm、短径24cm、ST1床面からの深さは32cmである。北面に小段をもつ。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片(縄文・弥生)、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P1はST1に伴う柱穴と考えられる。

③ 柱穴P2 (Fig. 8)

平面形は楕円形で、長径28cm、短径24cm、ST1床面からの深さは18cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は弥生土器細片、土師質土器、石器碎片等が出土しており、土師質土器1点を図示した。(Fig. 10) P2は中世の所産と考えられる。

④ 柱穴P3 (Fig. 8)

平面形は円形で、直径26cm、ST1床面からの深さは44cmである。埋土は暗褐色土の単一層である。

遺物は土器細片(縄文・弥生)、石器剥片・碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P3はST1に伴う柱穴と考えられる。

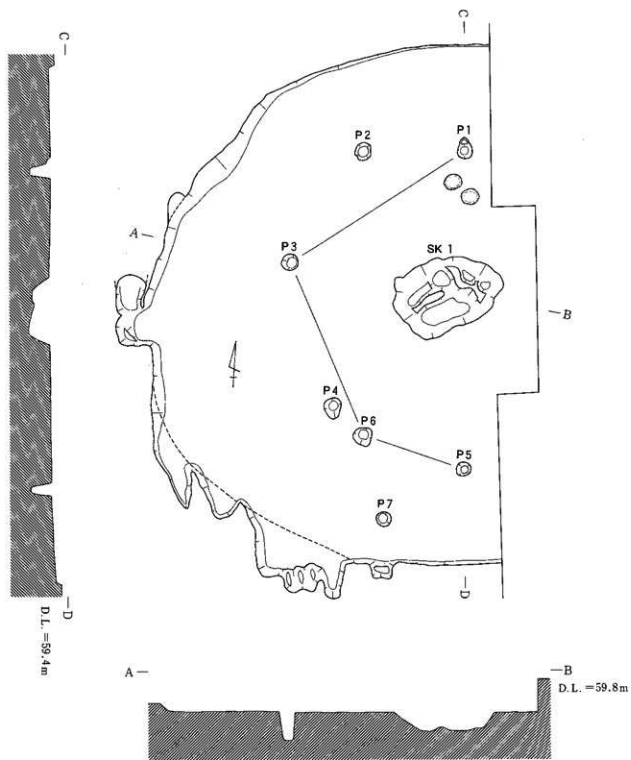


Fig. 6 ST 1 (S : $\frac{1}{60}$)

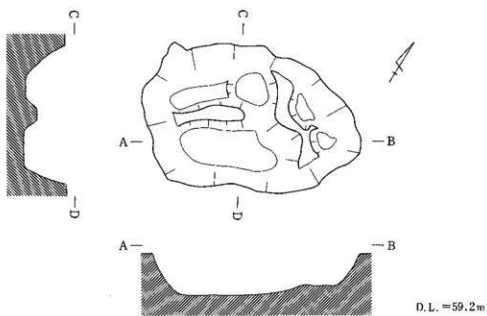
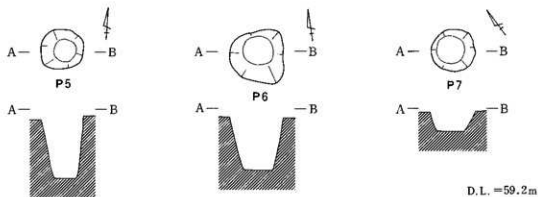
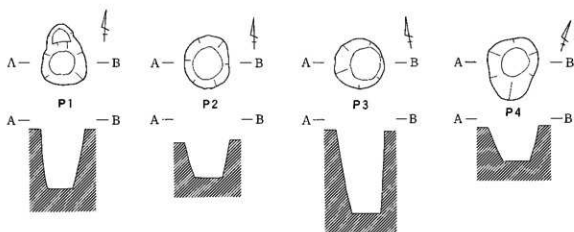


Fig. 7 ST 1-SK 1 (S : $\frac{1}{30}$)

0 1 m



D.L. = 59.2m

0 50cm

Fig. 8 ST 1-P1~P7 (S : $\frac{1}{20}$)

⑤ 柱穴 P 4 (Fig. 8)

平面形は不整形で、長径32cm、短径27cm、ST 1床面からの深さは19cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は弥生土器の細片が出土しているが、図示できるものはない。P 4はST 1に伴う柱穴と考えられる。

⑥ 柱穴 P 5 (Fig. 8)

平面形は隅丸方形で、長径23cm、短径21cm、ST 1床面からの深さは32cmである。埋土は暗褐色土の単一層である。

遺物は土器細片(縄文・弥生)、石器剥片・碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 5はST 1に伴う柱穴と考えられる。

⑦ 柱穴 P 6 (Fig. 8)

平面形は不整形で、長径28cm、短径26cm、ST 1床面からの深さは28cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は弥生土器細片、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 6はST 1に伴う柱穴と考えられる。

⑧ 柱穴 P 7 (Fig. 8)

平面形は楕円形で、長径24cm、短径22cm、ST 1床面からの深さは10cmである。埋土は暗褐色土の単一層である。

遺物は土師質土器細片、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 7は中世の所産と考えられる。

2. ビット状遺構 (Fig. 9)

① P 1

平面形は隅丸方形で、長径34cm、短径31cm、検出面からの深さは42cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片(縄文・弥生・中世・瓦器)、石鏃1点、石器碎片等が出土している。P 1は中世の所産と考えられる。

② P 2

平面形は円形で、直径27cm、検出面からの深さは13cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片(縄文・中世)、石鏃1点等が出土している。P 2は中世の所産と考えられる。

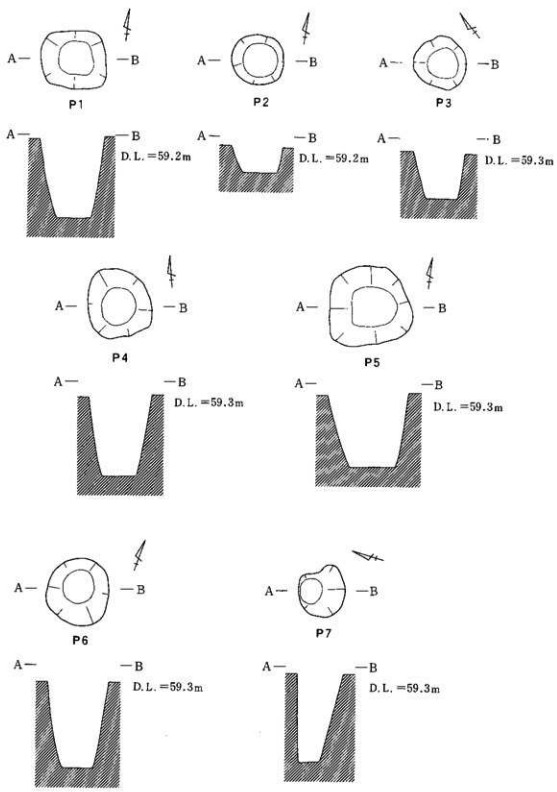


Fig. 9 P 1 ~ P 7 (S : $\frac{1}{20}$)

0 50cm

③ P 3

平面形は不整形で、直径28cm、検出面からの深さは25cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片（縄文・弥生・中世・瓦器）、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 3は中世の所産と考えられる。

④ P 4

平面形は不整形で、規模は長径36cm、短径33cm、検出面からの深さは42cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片（縄文・弥生・中世・瓦器）、近世磁器片、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 4は近世の所産と考えられる。

⑤ P 5

平面形は不整形で、規模は長径・短径ともに42cm、検出面からの深さは38cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片（縄文・弥生・中世）、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 5は中世の所産と考えられる。

⑥ P 6

平面形は不整形で、規模は長径36cm、短径32cm、検出面からの深さは44cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片（縄文・中世・青磁）、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 6は中世の所産と考えられる。

⑦ P 7

平面形は不整形で、規模は長径28cm、短径24cm、検出面からの深さは46cmである。埋土は黒褐色土の単一層である。

遺物は土器細片（縄文・中世・瓦器？）、石器碎片等が出土しているが、図示できるものはない。P 7は中世の所産と考えられる。

(3) 遺物

1. 土器・土製品

(1) 遺構出土土器 (Fig.10)

① ST 1 出土土器 (Fig.10-1~14)

縄文土器と弥生土器、あわせて14点を図示した。

1~11は縄文土器である。1~4は有文深鉢・口縁部片である。1は口縁部上面に沈線及び短沈

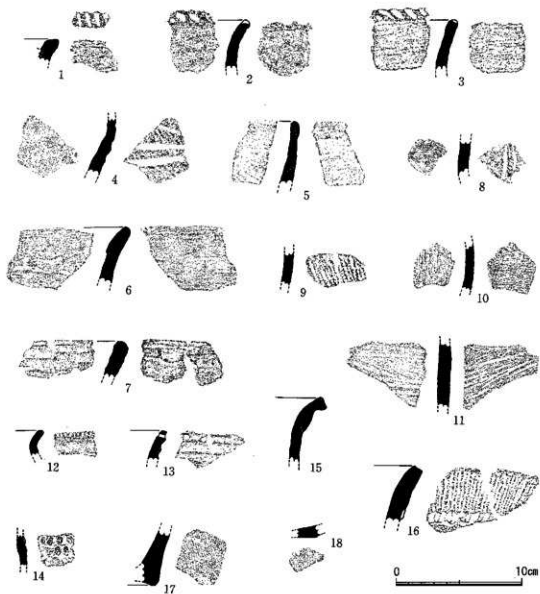


Fig. 10 遺構出土遺物（土器）

線を施文する。2・3は口縁端部に刻目もしくは短沈線を施文する。1～3は松ノ木式土器，4は平城式土器である。5は浅鉢・口縁部片である。6・7は深鉢・口縁部片である。8～10は有文深鉢・胴部片である。8は磨消縄文の土器で，宿毛式か。9は平城式土器である。10は横位の短沈線を施文する。11は深鉢・胴部片で，条痕調整である。1・5・7・9・10はIV層出土，2・3・4・6・8・11はIII層出土である。

12～14は弥生土器である。12は甕？・口縁部片で，頸部に沈線1条，口唇部外端に刻目文を施す。13・14は壺である。13は隆帯を貼付し，外面側から穿孔がなされる。14は頸部片で，貼付文を有する。12・14はIV層出土，13はIII層出土である。

② ST1-SK1出土土器 (Fig.10-15-17)

弥生土器3点を図示した。

15・16は壺・口縁部片である。16は櫛描文、円形貼付文を施す。17は甕・底部片である。15は埋土1分層出土、16・17は埋土2分層出土である。

③ ST1-P2出土土器 (Fig.10-18)

18は土師質土器・底部片で、回転糸切り痕を有する。

(2) 包含層(分層)出土土器・土製品 (Fig.11)

① 縄文土器・土製品 (Fig.11-19-39)

19・20は有文深鉢・口縁部片で、いずれも松ノ木式土器である。19は外面に縄文RLを有する橋状把手部分で、B-4・II-2分層出土である。20は口縁部上面に沈線及び縄文原体の押圧を施し、C-4・II-2分層出土である。21・22は外面に縄文帯をもつ深鉢・口縁部片で、いずれも縄文RLである。21・22は平城式土器で、21はC-4・II-2分層出土、22はC-4・II-1分層出土である。23は有文深鉢・口縁部片で、磨消縄文施文の平城式土器である。C-4・II-1分層出土。24は有文浅鉢の口縁部片で、C-3・II-3分層出土である。24は平城式土器か。25は浅鉢・口縁部片である。A-2・II-2分層出土。26・27は有文深鉢・口縁部片である。26は口縁部上面に円形刺突文を施す。27は外面及び口縁部上面に円形刺突文を施す。26はD-4・II-1分層出土、27はB-4・II-1分層出土である。28は外面に縄文帯RLを有する深鉢・口縁部片である。C-4・II-1分層出土である。29は有文深鉢・口縁部片で、凹線1ならびに縄文RLを有する。D-4・II-1分層出土である。30は口縁部片か。A-2・II-2分層出土。

31・33は有文深鉢・胴部片である。31は磨消縄文土器で、宿毛式か。33は充填縄文の土器で、平城式か。31はE-4・II-1分層出土、33はB-4・II-2分層出土である。32は有文浅鉢・胴部片である。C-4・II-2分層出土である。34~36は縄文施文の深鉢・胴部片で、縄文はいずれもRLである。36は補修孔1を有する。34~36は平城式土器で、34はC-3・II-3分層出土、35はD-4・II-1分層出土、36はC-4・II-1分層出土である。37・38は有文深鉢・胴部片である。37は磨消縄文施文で、沈線の末端に刺突が入る。C-4・II-2分層出土である。38は沈線3、凹線1及び巻貝刺突文?2を縦位に施文する。B-4・II-1分層出土である。

39は器種不明の土製品で、表裏両面に細い沈線文を施す。D-3・II-2分層出土で、縄文時代の所産とみられる。

② 弥生土器 (Fig.11-40-43)

40は壺・口縁部片で、外面に沈線1?、斜沈線文(櫛描文?)を施す。弥生前期末か。41は壺・口縁部片で、刻目突帯を有し、ハケ調整である。42は壺・口縁~頸部片で、外面に段を有する。41・42は弥生前期の所産である。43は甕・底部片で、平底である。弥生後期の所産とみられる。40~43はC-4・II-2分層出土である。

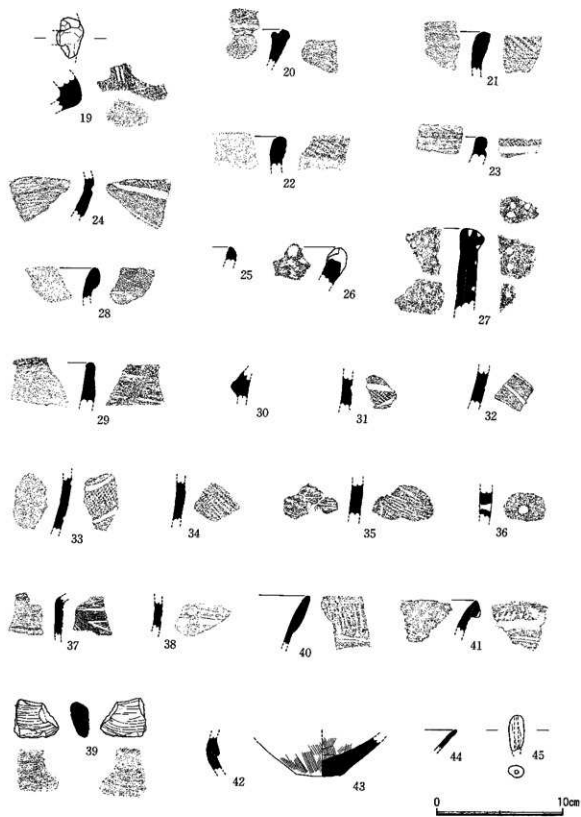


Fig. 11 包含層出土遺物(土器・土製品)

③ 瓦器 (Fig.11-44)

44は瓦器・口縁部片で、皿か。内面は銀化している。D-4・II-2分層出土である。

④ 土錘 (Fig.11-45)

45は一端を欠く。表面のナデは不整で、重量は2.5gである。D-3・II-1分層出土である。

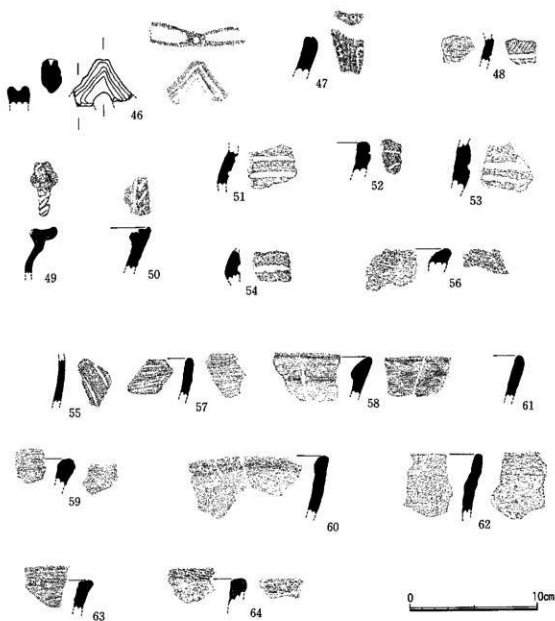


Fig. 12 包含層 (トレンチ) 出土遺物 (土器・土製品)

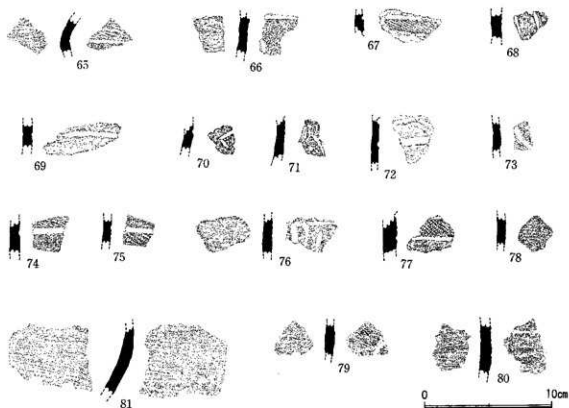


Fig.13 包含層（トレンチ）出土遺物（土器）

(3) 包含層（トレンチ）出土土器・土製品 (Fig.12~14)

① 縄文土器 (Fig.12・13)

46~64は口縁部片である。(Fig.12)

46~55は有文深鉢である。46は波状口縁の波頂部片で、磨消縄文施文である。口縁部上面に沈線、波頂部上面に刺突文を施す。47は波状口縁の谷部片である。外面の隆帯？両側に竹管刺突文を縦位に施し、同種の竹管文を口縁部上面にも施文する。46・47は後期前半の所産とみられる。48は磨消縄文土器で、宿毛式土器である。49・50は口縁部上面に短沈線を施文する松ノ木式土器で、49は平面形変形の貼付文が付き、文様集約部をなす。51~54は磨消縄文施文の土器である。

51は松ノ木式土器と考えられる。52~54は平城式土器である。55は磨消縄文LR施文で、宿毛式土器か。

46・48・49・52・55はA-3・TR出土、47はB-4・TR出土、50・51はBトレンチ出土、53はAトレンチ出土、54はA-2・TR出土である。

56は深鉢で、内面に縄文LRを有する。平城式土器か。57は浅鉢？で、外面は強いナデ調整である。58はミガキ調整の深鉢で、松ノ木式土器とみられる。59は波状口縁の深鉢で、松ノ木式土器である。60・62~64はナデ調整の深鉢である。61は浅鉢？で、平城式土器か。

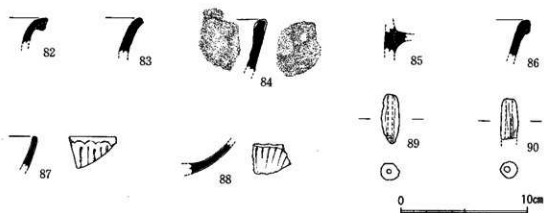


Fig. 14 包含層（トレンチ）出土遺物（土器・土製品）

56～57・59～62はA-3・TR出土，64はAトレンチ出土，58はA-2・TR出土，63はC-3・TR出土である。

65～81は胴部片である。（Fig. 13）

65～77は有文深鉢である。65は硬質の繊維による縄文を有し，縄文中期・船元式土器と考えられる。66～77は磨消縄文施文の土器である。66・67・72～75・77は縄文RL，70・71は縄文LRである。71は充填縄文である。66～75は宿毛式土器と考えられる。76は沈線文による文様集約部である。76・77は平城式土器である。

65はB-2・TR出土，66・73はB-3・TR出土，67はAトレンチ出土，68はトレンチ清掃土出土，69・70・72・77はA-3・TR出土，71・75はA-2・TR出土，74はC-4・TR出土，76はC-3・TR出土である。

78～80は深鉢である。78・79は縄文RL施文で，79は縄文原体による押圧文か。78は平城式土器である。80は沈線状の凹み2条を有する。81は胴部片で，外面にハケ状の条線がみられる。弥生土器の可能性ある。

78～80はA-3・TR出土，81はBトレンチ出土である。

② 弥生土器（Fig. 14-82）

82は壺・口縁部片で，弥生前期か。C-4・TR出土である。

③ 土器（Fig. 14-83～85）

83は壺・口縁部片である。古墳前期か。84は鉢？・口縁部片である。85は甌・胴部片（把手部片）である。84・85は古墳時代の所産とみられる。

83・85はA-3・TR出土，84はF-4・TR出土である。

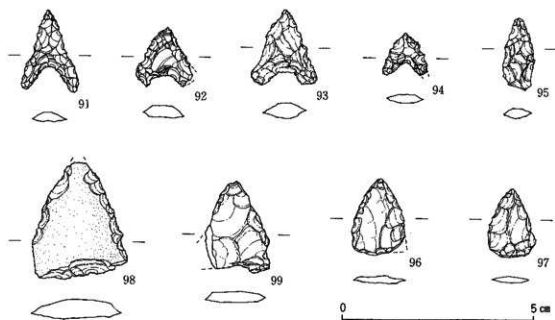


Fig. 15 ST 1 出土遺物 (石器)

④ 瓦器 (Fig. 14-86)

86は鉢?・口縁部片である。A-3・TR出土である。

⑤ 青磁 (Fig. 14-87・88)

87・88は碗で同一個体とみられる。いずれも外面に線描連弁文を施し、内面は無文である。87はC-2・TR出土、88はC-3・TR出土である。

⑥ 土鎌 (Fig. 14-89・90)

89・90ともに一端を欠く。89は表面不整である。重量は、89が5.3g、90が5.7gである。89はD-2・TR出土、90はC-2・TR出土である。

2. 石器

(1) ST 1 出土石器 (Fig. 15-17)

① 縄文時代・石鎌 (Fig. 15-91-95)

91-94は円基、95は有茎鎌である。石材は91・92がチャート、93-95がサヌカイトである。93はIV層出土、91・92・94・95はIII層出土である。

② 弥生時代・石鎌 (Fig. 15・16-96-105)

96・97は円基で、サヌカイト製である。98は円基で、背面に礫皮面を多く残す。99は円基である

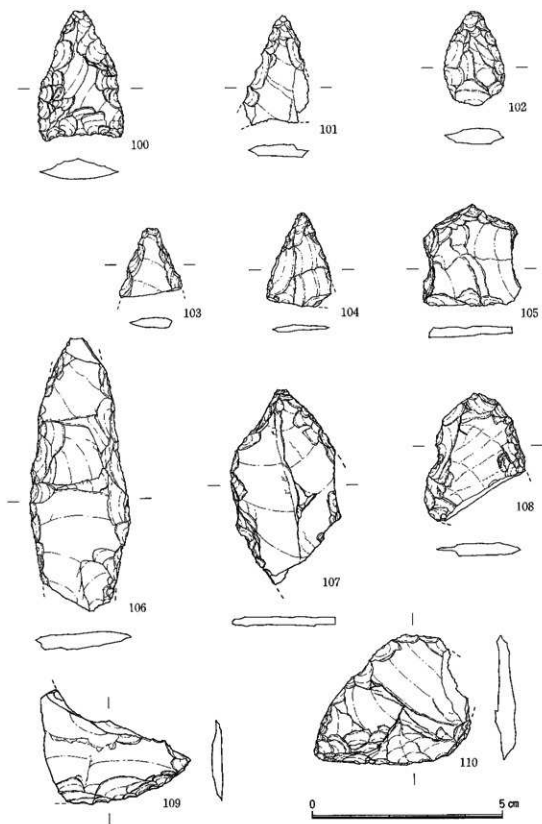


Fig. 16 ST 1 出土遺物 (石器)

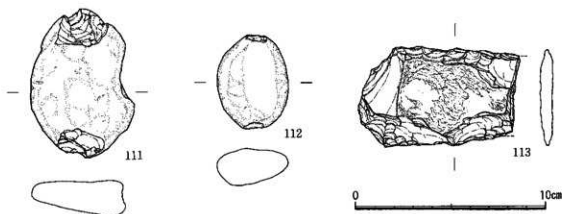


Fig. 17 ST 1 出土遺物 (石器)

が、未製品の可能性がある。98・99は頁岩製である。

100・101は凹基，102は円基である。103・104は基部を欠く。105は五角形を呈し，主に片面調整である。100～105は凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）製で，101～105は扁平な剥片を素材とする。

96～102はIV層出土，103・105はIII層出土，104はST 1 - SK 1の埋土2分層出土である。

③ 尖頭器 (Fig. 16-106-108)

106は先端部・基部を欠き，107・108はともに基部側を欠く。いずれも扁平な剥片を素材とし，石材は凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）である。

108はIV層出土，106・107はIII層出土である。

④ スクレーバ (Fig. 16-109・110)

109は約半分を欠き，110は一端を欠く。110は一部礫皮面を残す。いずれも扁平な剥片を素材とし，石材は凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）である。

109・110はIV層出土である。

⑤ 石錘 (Fig. 17-111・112)

111・112いずれも長軸両端部を打欠き，石材はともに砂岩である。

111・112はIII層出土である。

⑥ 打製石庖丁 (Fig. 17-113)

113は泥岩の板状剥片を素材とする打製石庖丁か？

113はIV層出土である。

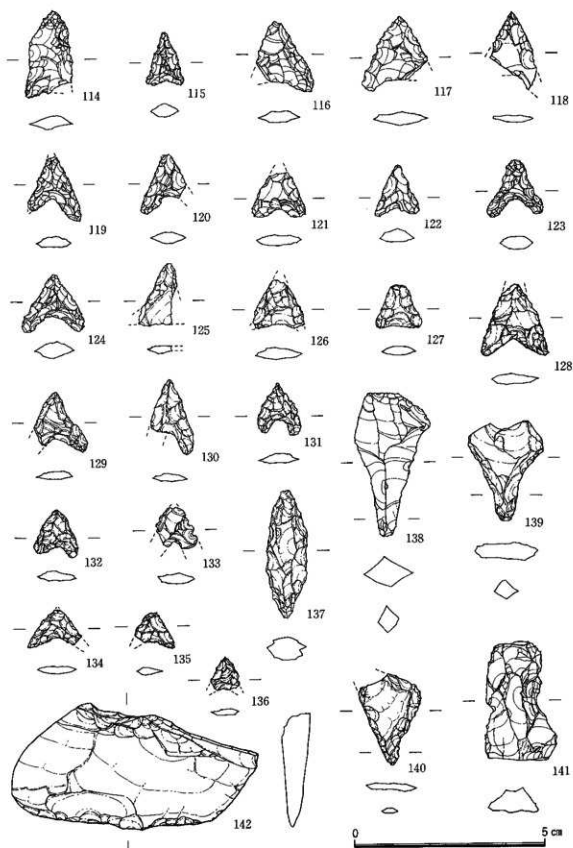


Fig. 18 包含層出土遺物 (石器)

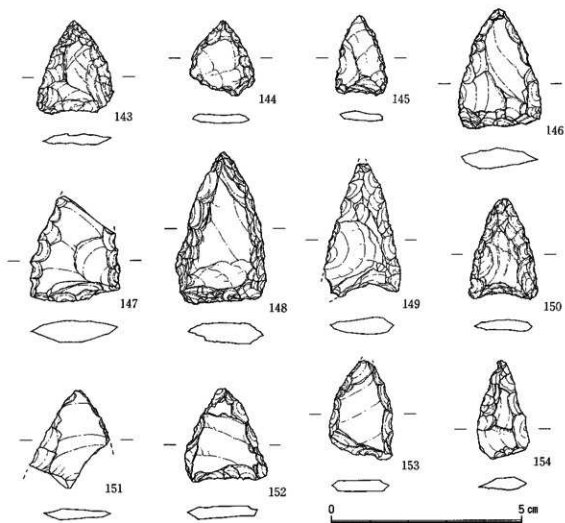


Fig. 19 包含層出土遺物（石器）

(2) 包含層（分層）出土石器（Fig. 18～21）

① 縄文時代・石鏃（Fig. 18～114～137）

114～124は凹基で、いずれもチャート製である。

125は平基、126～136は凹基、137は有基である。125～137はサヌカイト製である。

出土グリッド・層位は観察表に記す。

② 縄文時代・石錐（Fig. 18～138～140）

138・139は尖端部が鈍っている。138はチャート製、139・140はサヌカイト製である。

138はC-3・II-1分層出土、139はA-4・II-1分層出土、140はA-2・II-2分層出土である。

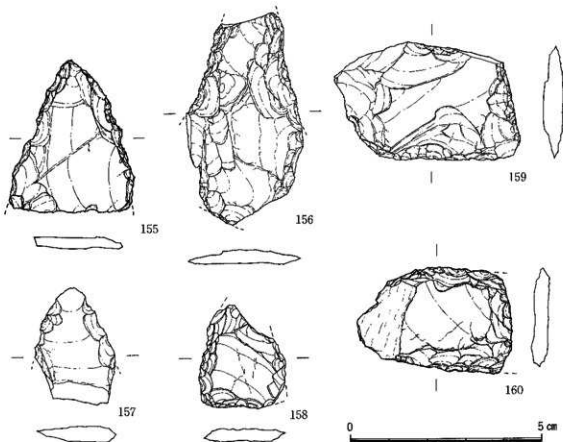


Fig. 20 包含層出土遺物 (石器)

③ 縄文時代・有挾石器? (Fig. 18-141)

141はチャート製の有挾石器?である。A-2・II-2分層出土である。

④ 縄文時代・スクレーパー (Fig. 18-142)

142はサヌカイト製のスクレーパーで、横長切片を素材とする。C-3・II-2分層出土である。

⑤ 弥生時代・石鏃 (Fig. 19-143-154)

143・145は凹基、144は基部を欠く。143-145はサヌカイト製である。

146・147は平基ぎみで、石材は頁岩である。

148・152は平基、149・150は凹基である。148-153は扁平な切片を素材とする。148-154は凝灰質頁岩 (酸性凝灰岩) 製である。

出土グリッド・層位は観察表に記す。

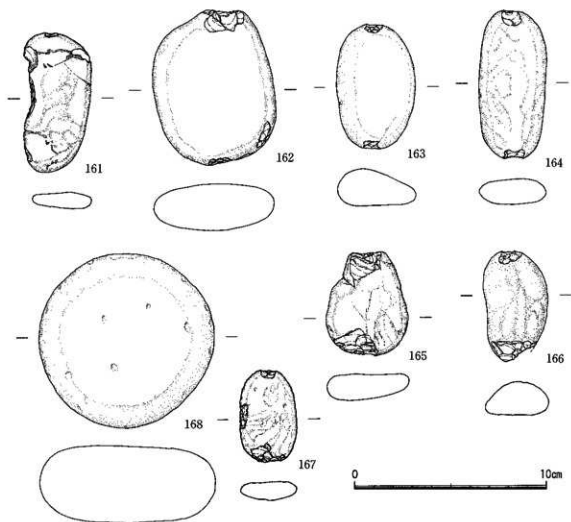


Fig. 21 包含層出土遺物（石器）

⑥ 弥生時代・尖頭器 (Fig. 20-155-158)

155・156は扁平な剥片素材, 157は縦長剥片素材である。155-157は凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）製である。158はチャート製で, 扁平な剥片を素材とする。

155はB-4・II-3分層出土, 156はC-4・II-2分層出土, 157はC-3・II-1分層出土, 158はA-4・II-2分層出土である。

⑦ 弥生時代・スクレーパ (Fig. 20-159・160)

いずれも扁平な剥片を素材とする。160は尖頭器の未製品の可能性がある。使用石材は, 159・160ともに凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）である。

159・160はC-3・II-2分層出土である。

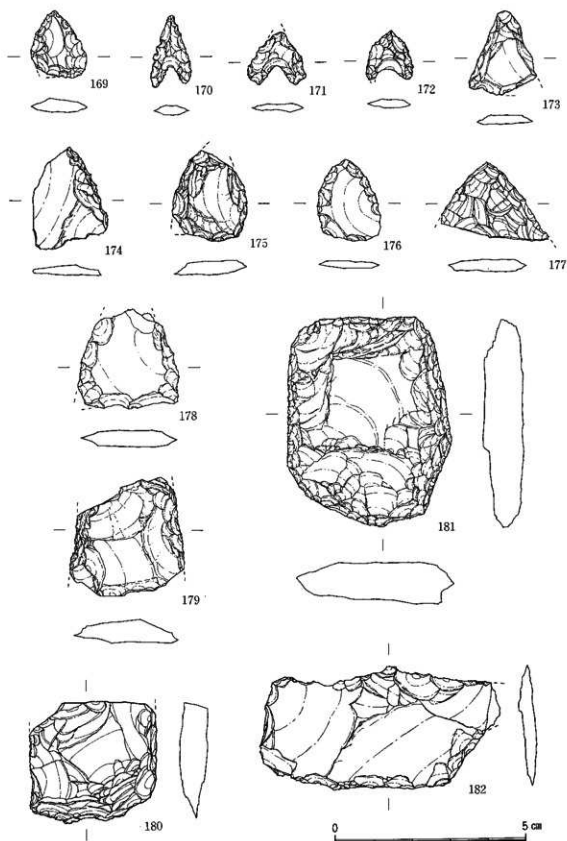


Fig. 22 包含層（トレンチ）出土遺物（石器）

⑧ 有抉石器? (Fig. 21-161)

161は泥岩製の有抉石器?で、左側縁部に調整?がみられる。縄文時代か?

C-4・II-2分層出土である。

⑨ 石錘 (Fig. 21-162-167)

162-167ともに長軸両端部を打欠く。いずれも縄文時代の所産か?

出土グリッド・層位は観察表に記す。

⑩ 叩石 (Fig. 21-168)

花崗岩製で周縁部に敲打痕がみられる。

D-3・II-2分層出土である。

(3) 包含層 (トレンチ) 出土石器 (Fig. 22・23)

① 縄文時代・石鏃 (Fig. 22-169-172)

169は平基?, 170-172は円基である。169はチャート製, 170-172はサヌカイト製である。

出土グリッド・層位は観察表に記す。

② 弥生時代・石鏃 (Fig. 22-173-176)

173は基部を欠き, サヌカイト製である。175・176は円基で, 174は未製品の可能性がある。174-176は扁平な剝片を素材とし, 石材は凝灰質頁岩 (酸性凝灰岩) である。

出土グリッド・層位は観察表に記す。

③ 弥生時代・尖頭器 (Fig. 22-177-179)

177はチャート製で, 扁平な剝片を素材とする。178・179は扁平な剝片を素材とし, 石材は凝灰質頁岩 (酸性凝灰岩) である。

177はC-4・TR出土, 178はAトレンチ出土, 179はC-3・TR出土である。

④ 弥生時代・スクレーパー (Fig. 22-180-182)

180はチャート製で, 扁平な剝片を素材とし, 尖頭器の可能性がある。182は扁平な剝片を素材とする。181・182は凝灰質頁岩 (酸性凝灰岩) 製である。

180はC-4・TR出土, 181はC-4・清掃土出土, 182はD-2・TR出土である。

⑤ 石核 (Fig. 23-183)

183は頁岩製の石核で, 上下右方向から主に横長剝片を剝取している。弥生時代の所産と考えられる。C-3・TR出土である。

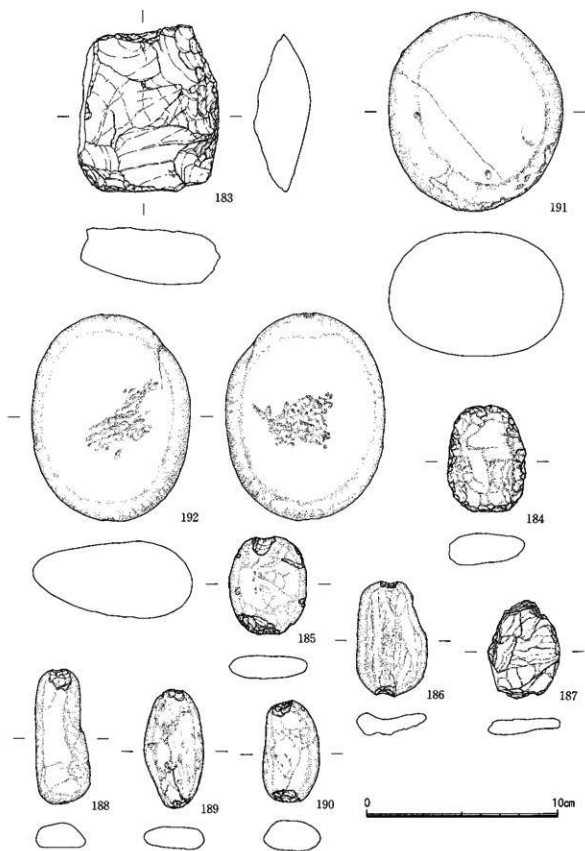


Fig. 23 包含層（トレンチ）出土遺物（石器）

⑥ 石錘 (Fig. 23-184-190)

184~190はいずれも長軸両端部を打欠く。縄文時代の所産か？

出土グリッド・層位は観察表に記す。

⑦ 叩石 (Fig. 23-191・192)

191は結晶片岩製, 192は砂岩製である。

191・192はいずれも表採遺物である。

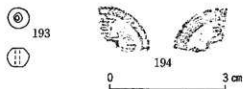


Fig. 24 包含層出土遺物 (玉類・銀貨)

3. 玉類 (Fig. 24-193)

水晶小玉

上下端部は平坦。孔内面には線状の研磨痕 (擦痕) がみられる。帰属年代は特定できない。

D-4・II-2分層出土である。

193については、ガラス製品の可能性があったため、肥塚隆保氏 (奈良国立文化財研究所) に分析をお願いし、水晶との鑑定結果をいただいた。(Fig. 25)

4. 金属製品 (Fig. 24-194)

寛水通宝

約1/4が残存。裏面上部に「文」銘を有する。

A-2・II-2分層出土である。

註

(1) 越知町史編纂委員会 『越知町史』 高知県高岡郡越知町 1984年

第V章 総 括

(1) 竪穴住居跡ST1について

平成7年度の第1次調査で確認されていた土坑状遺構を中央土坑（中央ピット）とする竪穴住居跡を確認した。遺構の埋没した年代は、出土土器により弥生前期末頃と考えられる。竪穴住居跡の検出は越知町管内においては初のことである。

竪穴住居跡の確認と、土坑状遺構の残り半分の調査によって、平成7年度の第1次調査時に縄文時代の土坑状遺構とみられていたものは住居跡の中央土坑であり、また縄文時代後期の遺物包含層とみられていた黒色土層は住居跡の埋土であったことが判明した。同時に、平成7年度出土のガラス製品は弥生時代前期の所産であることが追認された。

(2) 出土土器について

本次の調査においては、縄文時代から古墳時代、そして中世・近世と、広範な年代にわたる土器が出土した。中でも量的に主体をなすものは縄文土器であり、宿毛式土器、松ノ木式土器、平城式土器等の型式名が付与されている縄文後期前半代の土器がその大半を占めている。破片点数においては表Aにあるとおり圧倒的であるが、破片の残り具合は悪く、辛うじて土器細片と分類されない程度の小破片が多数である。縄文土器に限らず、土器片の小破片化が著しいのは、女川遺跡の特徴といえる。また、本次の調査においては縄文中期・船元式とみられる土器や、後期前半より後出する様をもつ破片もみられ、縄文時代における遺跡の存続幅が前後に広がりがつつある。

弥生時代に関しては、住居跡が検出されたにも関わらず、弥生土器の出土量はきわめて少ない。なお、弥生後期土器、及び古墳時代の土器とみられるものが少量ながら出土しており、女川遺跡の存続した年代幅は更に広がることとなった。現在のところ、越知町においてはこれ以上の各年代にわたる遺跡は知られない。

なお表A中で、縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器の4器種以外は細片についても点数をあげたために、見た目には数多く映るが、単純に前の4器種とは比較できないということを付記しておく。細片まで分類できるものと、そうでないものとのを数量比較する際の問題点である。

(3) 出土石器について

出土土器もさることながら、多量の石器の出土は本次調査の大きな成果である。表Bならびに表Cに示したとおり、剥片石器及びその製作に伴う剥片・碎片類の出土量には目を見張るものがある。徹底した遺物採取方法が結実したものと理解している。ただし、これらは縄文・弥生両時代の石器の総合された状態であるが、すでに遺物の項で分類したとおり、石器石材や石器製作技法の面で明らかな違いが認められる。

まず弥生時代の石器石材は、凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）⁽¹⁾を中心とし、赤色を呈するチャート（表C中のチャートA）と、若干のサヌカイトがこれに加わる。石籐・尖頭器・スクレーパなどが器種としてあげられるが、中でも尖頭器の多さは注目される。石器の製作技法は、薄く板状に削取した

素材削片の周縁部の調整刻離を主とする、凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）使用の石鏝・尖頭器に最も特徴的に現れている。剥皮面を残す大型の石核から、板状の素材削片、最終加工工程で生じた碎片類までが本次調査区内から得られており、特にST1とその周辺に集中する傾向が窺われる。ST1については、転石の状態から製品までの加工を一貫しておこなう、工房的な性格を考えなければならない。なお、従来越知町横倉山原産の石器石材として注目してきた凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）は弥生時代前期段階の主要石材であることが、今回の調査で判明した。

縄文時代の石器石材については、サヌカイトが支配的であり、上記の「赤色を呈するチャート」を除いた各色調のチャート（表C中のチャートB）がこれに続く。石鏝・石錐が主要な製作器種で、特に石鏝の量は圧倒的である。現在、住居跡等が未検出でありながら、およそ250点以上もの石鏝を出土するのは、改めて、女川遺跡の最大の特徴といえよう。しかし、その形態には様々なものが見受けられ、縄文時代の中でも年代差を考えさせられる。縄文時代の石鏝の種々の形態に関しては、今回図化できなかったものも含めて、検討すべき課題である。

なお、頁岩製石鏝の中には弥生時代の石器製作技法の特徴をもつものが含まれている。しかし、「頁岩」でひと括りにした頁岩質の石材には、数種類のもものが混在しており、詳細は個別石材ごとの検討を必要とする。

(4) 出土遺物について

調査方法の項で記したとおり、本次の調査では徹底した遺物採取方法を採用した。土壌選別作業を経て、水洗選別作業の対象となった遺物（土壌を含む）量は、土のう袋漬杯に詰めて約150個分ほどであった。調査時点では、ガラス製品や石器類の検出を目的としたものであったが、室内作業の進展に伴い、この遺物総量もつであろう多くの可能性を考えるに至った。もちろん採取方法自体に全く問題がないわけではないが、一定の方針によって取り上げることができた資料群として、あるいは実験データの用途にも対応することを考え、現時点においては選別・廃棄せずに残した全遺物を集計して一覧表（表A・B）として提示し、本次調査の成果の1つに加えることとした。「現地取上」の段にはフルイ選別を用いずに採集できた遺物量を、「土壌選別」の段にはフルイ選別で採集できた遺物量を、それぞれ示している。遺物の集計方法にも種々問題があらうが、一部重量による集計表記も使用した。本次調査で取り扱ったすべての遺物を、どんな形にしろ本文に登場させることを意図した次第である。これら集計データから得られる情報については、今回論及することはできないが、同じく紹介できなかった多くの遺物とあわせて、今後検討していかなければならない課題である。

註

- (1) 凝灰質頁岩（酸性凝灰岩）については、安井敏夫氏（越知町立横倉山自然の森博物館）にご鑑定、ご教示いただいた。

	興文土器	弥生土器	土師器	土師質土器	土器細片(ε)	須恵器	瓦器	銅前焼他	青磁	土師	陶磁器(近世)	瓦	その他	銭貨	水晶小玉	金属製品他(ε)	貝・獣骨(ε)	炭化物(ε)
現地取上	1238	145	34	299	1686	3	147	50	43	7	269	73	25	1	0	1016	4	31
土壌選別	1250	121	10	390	20891	9	1511	138	43	40	462	560	31	2	1	2681	62	1303
合計	2488	266	44	689	22477	12	1658	188	86	47	731	633	56	3	1	3697	66	1334

表A 出土遺物集計表1

	石鏃	尖頭器	石鏃	スクレイパ	石鏃	その他の石器	石核・残核	剥片類	砕片・細片	その他	総量(ε)
現地取上	37	21	2	12	32	40	44	334	227	92	53535
土壌選別	308	9	3	2	0	11	36	375	9639	49	90976
合計	345	30	5	14	32	51	80	709	9866	141	144511

表B 出土遺物集計表2

	石鏃	尖頭器	石鏃	スクレイパ	その他の石器	石核・残核	剥片類	砕片・細片	その他	合計
板原質原層	61	23	0	11	0	3	251	2061	4	2414
チャートA	10	7	0	1	0	6	80	597	0	701
チャートB	81	0	2	0	1	63	186	2839	6	3178
サヌカイト	181	0	3	1	1	5	101	3879	0	4171
頁岩	11	0	0	0	0	3	49	293	1	357
その他	1	0	0	1	0	0	42	197	1	242
合計	345	30	5	14	2	80	709	9866	12	11063

表C 剥片石器石材別集計表

表2 土器・土製品観察表1

発掘番号	出土地点・層位	器種 器形 部位	法高 (cm)	文様・調査 外壁 内面 上蓋	色調	外壁 内面	胎土	備考
Fig.10-1	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 1.80	ナデ 不明 沈積1, 刷文様文	褐 明赤褐	7.5YR 4/3 5YR 5/6	長石	縄文後期・松ノ木式
Fig.10-2	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.80	ナデ ナデ 刷目文(刷文様文)	にぶい黄褐 赤黄褐	10YR 5/3 # 5/4	長石, 石英, チャート	縄文後期・松ノ木式
Fig.10-3	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.85	ナデ ナデ 刷目文(刷文様文)	にぶい褐 にぶい黄褐	7.5YR 6/4 10YR 6/3	長石, 石英, 霏母	縄文後期・松ノ木式
Fig.10-4	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 4.50	沈積3, 縄文R.L ナデ	黒褐 黒	10YR 3/2 # 2/1	長石, 石英, 角閃石	縄文後期・平城式
Fig.10-5	ST1・IV層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 4.95	ミガキ ミガキ	灰黄 # # #	2.5Y 7/2	長石, 石英, 角閃石	縄文後期
Fig.10-6	ST1・IV層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 4.45	ナデ ミガキ, ナデ	にぶい黄褐 灰黄褐	10YR 7/4 # 5/2	長石, 石英, 霏母	縄文後期
Fig.10-7	ST1・IV層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.85	ナデ ナデ	灰褐 # # #	7.5YR 4/2	長石, 角閃石	縄文後期?
Fig.10-8	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 2.80	沈積2, 縄文L.R?, ナデ ナデ, ハラナデ	にぶい黄褐 #	10YR 6/3 7.5YR 6/6	長石, 石英, チャート	縄文後期・蓆毛式?
Fig.10-9	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 2.70	縄文R.L ナデ	明赤褐 にぶい黄褐	5YR 5/6 10YR 5/3	長石, 石英, 霏母	縄文後期・平城式
Fig.10-10	ST1・IV層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.80	刷文様文, ナデ ナデ	灰黄褐 褐	10YR 6/2 # 5/1	長石, 石英, 霏母	縄文後期
Fig.10-11	ST1・IV層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 5.15	条痕 条痕, ナデ	明赤褐 にぶい黄褐	5YR 5/6 10YR 7/4	長石, 石英, 角閃石, 霏母	縄文後期?
Fig.10-12	ST1・IV層	弥生土器 甕? 口縁部片	残高 2.00	沈積1, 刷目文 ナデ	黄黄褐 にぶい黄褐	10YR 8/4 # 7/4	石英, 長石, 霏母	弥生前期
Fig.10-13	ST1・IV層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.50	亀背3, 穿孔, ナデ ナデ	にぶい褐 にぶい黄褐	7.5YR 5/4 10YR 6/4	長石	弥生前期
Fig.10-14	ST1・IV層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.50	沈積, 粘付文 ナデ	にぶい黄褐 灰	10YR 7/4 5Y 4/1	長石	弥生前期
Fig.10-15	ST1-SK1 埋土1分層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 6.20	ナデ, 押圧 ナデ, 押圧	にぶい黄褐 # # #	10YR 6/4	長石, 石英, 霏母	弥生前期?
Fig.10-16	ST1-SK1 埋土2分層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 4.50	磨削付文, 円形粘付文, 沈積1? ナデ	褐 にぶい黄褐	7.5YR 6/6 10YR 6/4	長石, 石英	弥生前期末
Fig.10-17	ST1-SK1 埋土2分層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 4.30	ハケ, ナデ 押圧, ナデ	にぶい黄褐 # # #	10YR 7/4 # 6/3	石英, 長石, 角閃石?	弥生前期
Fig.10-18	ST1-P2	土師黄土器 浅鉢片	残高 0.95	磨削糸切り痕 深粘ナデ	にぶい黄褐 # # #	10YR 7/3		口ク口右
Fig.11-19	B-4・ II-2分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 2.80	縄文R.L, ナデ ナデ	にぶい黄 灰黄	7.5YR 6/4 # 5/2	長石, 石英	縄文後期・松ノ木式 溝状把手部片
Fig.11-20	C-4・ II-2分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 2.70	ナデ(埋い) ナデ 沈積1, 縄文要素押圧	赤褐 明赤褐	5YR 4/6 # 5/6	長石, 石英, チャート	縄文後期・松ノ木式
Fig.11-21	C-4・ II-2分層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 3.05	縄文R.L, ナデ ナデ	暗褐 赤褐	7.5YR 3/3 2.5YR 4/6	長石, 石英, 霏母	縄文後期・平城式
Fig.11-22	C-4・ II-1分層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.40	縄文R.L, ナデ ナデ	暗赤褐 赤褐	5YR 3/3 2.5YR 4/6	長石, 石英, 霏母	縄文後期・平城式
Fig.11-23	C-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 1.65	沈積1, 縄文R.L ナデ	にぶい黄褐 # # #	10YR 7/4	長石, 石英, 角閃石, 霏母	縄文後期・平城式

表3 土器・土製品観察表2

標記番号	出土地点・層位	種類 器種 部位	高さ (cm)	文様・彫刻 外周 内面 上面	色調 外周 内面	胎土	備考
Fig.11-24	C-3・ II-3分層	縄文土器 有文浅鉢 口縁部片	残高 5.20	沈線2, 縄文R.L, ミガキ ナデ (丁寧)	灰黄褐色 10YR 4/2 にぶい黄褐色 * 4/3	長石, 石英, 角閃石, 雲母	縄文後期・平城式?
Fig.11-25	A-2・ II-2分層	縄文土器 浅鉢 口縁部片	残高 1.10	ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/3 * * 7/4	長石, チャート	縄文後期?
Fig.11-26	D-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.00	ナデ (割部) ナデ (割部) 円形刺突文	灰黄褐色 10YR 8/4 にぶい黄褐色 7.5YR 7/4	石英, 長石, 雲母	縄文後期
Fig.11-27	B-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.45	円形刺突文2, ナデ ナデ (粗い) 円形刺突文4	にぶい黄褐色 10YR 7/3 * * *	石英, チャート	縄文後期
Fig.11-28	C-4・ II-1分層	縄文土器 深鉢 口縁部片	残高 2.45	縄文R.L, ナデ ナデ, ミガキ	にぶい黄褐色 7.5YR 5/3 黄褐色 5YR 6/6	長石, 石英, チャート	縄文後期
Fig.11-29	D-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 口縁部片	残高 3.20	凹線1, 縄文R.L, ナデ (ヘラナデ) ナデ	暗褐色 7.5YR 3/3 にぶい黄褐色 10YR 4/3	石英, 長石,	縄文後期
Fig.11-30	A-2・ II-2分層	縄文土器 口縁部片	残高 2.25	ナデ (丁寧)	明黄褐色 10YR 6/6 黄褐色 2.5Y 7/3	長石, 石英, 角閃石	縄文後期
Fig.11-31	E-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 胴部片	残高 2.40	沈線2, 縄文R.L, ミガキ ミガキ	暗赤褐色 5YR 3/4 暗褐色 7.5YR 3/3	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式?
Fig.11-32	C-4・ II-2分層	縄文土器 有文浅鉢 胴部片	残高 2.55	沈線3, ミガキ ミガキ	にぶい黄褐色 5YR 4/4 黄褐色 2.5Y 3/1	長石, 雲母,	縄文後期
Fig.11-33	B-4・ II-2分層	縄文土器 有文深鉢 胴部片	残高 4.35	沈線2, 縄文R.L ナデ	にぶい黄褐色 7.5YR 6/4 にぶい黄褐色 10YR 6/3	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式? 无縄文
Fig.11-34	C-3・ II-3分層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 3.20	縄文R.L ナデ	にぶい黄褐色 5YR 5/4 にぶい黄褐色 10YR 5/3	長石, 石英, 角閃石, 雲母	縄文後期・平城式
Fig.11-35	D-4・ II-1分層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 2.60	縄文R.L ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/3 黄褐色 2.5Y 3/1	長石, 石英	縄文後期・平城式
Fig.11-36	C-4・ II-1分層	縄文土器 深鉢 胴部片	残高 2.10	縄文R.L ナデ	明赤褐色 5YR 5/6 にぶい黄褐色 10YR 5/4	長石, 石英, 雲母, チャート	縄文後期・平城式 補修1
Fig.11-37	C-4・ II-2分層	縄文土器 有文深鉢 胴部片	残高 3.05	沈線文 (束縛刺突), 縄文R.L, ミガキ ミガキ	灰黄褐色 10YR 5/2 黄褐色 2.5Y 4/1	長石, 石英,	縄文後期
Fig.11-38	B-4・ II-1分層	縄文土器 有文深鉢 胴部片	残高 2.35	沈線3, 巻貝刺突文?2, 凹線1, ミガキ ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/3 にぶい黄褐色 * 5/3	長石, 石英, 雲母	縄文後期?
Fig.11-39	D-3・ II-2分層	土製品	全長 3.60 全幅 3.05 全厚 1.45	沈線文 (細い) 沈線文 (細い)	にぶい黄褐色 10YR 7/3 * * 6/3	長石, 石英	縄文後期?
Fig.11-40	C-4・ II-2分層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 3.90	沈線?1, 斜沈線文 ナデ?	にぶい黄褐色 10YR 6/4 黄褐色 2.5Y 4/1	石英?	弥生前期末
Fig.11-41	C-4・ II-2分層	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.60	突刺, 刻目文, ハケ?1, ナデ ナデ	にぶい黄褐色 10YR 6/3 * * 6/4	チャート	弥生前期
Fig.11-42	C-4・ II-2分層	弥生土器 甕 口縁部片?	残高 2.60	斜線付に沈, ナデ ナデ?	黄褐色 2.5Y 5/3 黄褐色 * 4/1	長石	弥生前期
Fig.11-43	C-4・ II-2分層	弥生土器 甕 底部片	残高 3.00 底径 3.45	ハケ 底径	黄褐色 10YR 4/1 明赤褐色 5YR 5/6	長石, 石英, 雲母	弥生後期 平基
Fig.11-44	D-4・ II-2分層	瓦器 口縁部片	残高 1.50	ナデ	灰 * * *		内面腐化
Fig.11-45	D-3・ II-1分層	土器	全長 2.80 全幅 1.25 全厚 0.96 孔径 0.50 重量 2.50	ナデ (不整)	黄褐色 2.5Y 7/3		

表4 土器・土製品観察表3

标本番号	出土地点・層位	器種 器形 部位	重量 (g)	文様・彫刻 外面 内面 上位置	色相 外面 内面	胎土	備考
Fig.12-46	A-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 3.70	沈線2, 縄文R.L ナデ	にぶい黄緑 10YR 6/4 # # #	長石, 石英, 雲母	縄文後期 波瀾部片
Fig.12-47	B-4・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 2.80	沈線1, 網文文1 波瀾, 竹葉刺突文, ナデ ナデ 竹葉刺突文3	にぶい黄緑 10YR 6/4 にぶい黄 7.5YR #	長石, 石英, 雲母	縄文後期
Fig.12-48	A-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 1.90	沈線2, 縄文L.R, ミガキ, ナデ ナデ, ミガキ (ヘラナデ)	にぶい黄緑 10YR 6/4 黄 7.5YR 6/6	長石, 雲母	縄文後期・宿毛式
Fig.12-49	A-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 4.20	ナデ ナデ 網文文	明黄緑 10YR 6/6 にぶい黄緑 # 4/3	長石	縄文後期・松ノ木式 波瀾部片
Fig.12-50	Bトレンチ	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 3.25	沈線?1, ナデ ナデ 沈線1, 網文文	にぶい黄緑 10YR 6/4 にぶい黄 7.5YR #	長石	縄文後期・松ノ木式
Fig.12-51	Bトレンチ	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 2.75	沈線2, 縄文L.R, ナデ ナデ	にぶい黄緑 10YR 7/3 # # #	赤色砂粒	縄文後期・松ノ木式
Fig.12-52	A-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 2.40	沈線2, 縄文R.L, ナデ ナデ	にぶい黄 7.5YR 5/4 明赤黄 5YR 5/5	長石, 石英	縄文後期・平城式?
Fig.12-53	Aトレンチ	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 3.70	沈線2, 縄文R.L? ナデ	明赤黄 2.5YR 5/6 黄 7.5YR 4/6	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式
Fig.12-54	A-2・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 2.35	沈線1, 縄文? ナデ? (網文)	黒褐 10YR 3/2 暗赤黄 2.5Y 5/2	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式
Fig.12-55	A-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 口縁部片	残高 3.50	縄文L.R, ミガキ ミガキ	にぶい黄緑 10YR 6/4 黄灰 2.5Y 4/1	長石, 石英, 雲母	縄文後期・宿毛式
Fig.12-56	A-3・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 1.30	ナデ 縄文L.R	黄灰 7.5YR 4/1 黄 # 4/3	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式?
Fig.12-57	A-3・TR	縄文土器 漆鉢? 口縁部片	残高 3.00	ナデ (強い) ヘラナデ, ナデ	灰黄緑 10YR 4/2 にぶい黄緑 # 6/4	長石, 石英, 角閃石	縄文後期
Fig.12-58	A-2・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 3.00	ミガキ ミガキ, ヘラナデ?, ナデ	にぶい黄緑 10YR 7/4 # # #	長石, 石英, 雲母	縄文後期・松ノ木式?
Fig.12-59	A-3・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 2.20	ナデ ナデ	淡黄緑 10YR 8/4 # # #	長石, 石英	縄文後期・松ノ木式 波瀾部片
Fig.12-60	A-3・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 4.65	ナデ ナデ	明黄 7.5YR 5/6 にぶい黄緑 10YR 5/3	石英, 長石	縄文後期
Fig.12-61	A-3・TR	縄文土器 漆鉢? 口縁部片	残高 3.20	ナデ? (網文)	にぶい黄緑 10YR 7/4 にぶい黄 7.5YR 6/4	長石, 石英, 雲母	縄文後期・平城式?
Fig.12-62	A-3・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 4.70	ナデ ヘラナデ (条線)	にぶい黄緑 10YR 6/4 # # #	長石, 石英	縄文後期?
Fig.12-63	C-3・TR	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 2.30	ナデ ナデ (強い)	灰黄緑 10YR 4/2 にぶい黄 7.5YR 5/4	長石, 石英	縄文後期
Fig.12-64	Aトレンチ	縄文土器 漆鉢 口縁部片	残高 2.05	ナデ ナデ ナデ	にぶい黄緑 5YR 4/4 # # #	長石	縄文後期
Fig.13-65	B-2・TR	縄文土器 有文漆鉢 胴部片	残高 2.70	沈線1, 黒刷縄文L?, 条痕? ヘラナデ (沈線状)	にぶい黄 7.5YR 5/3 にぶい黄緑 10YR #	長石, 石英	縄文中期・船毛式
Fig.13-66	B-3・TR	縄文土器 有文漆鉢 胴部片	残高 3.05	沈線3, 縄文R.L ナデ	黒褐 10YR 3/2 # # #	長石, 石英, 雲母	縄文後期・宿毛式?
Fig.13-67	Aトレンチ	縄文土器 有文漆鉢 胴部片	残高 1.55	沈線2, 縄文R.L ナデ	にぶい黄 7.5YR 5/3 灰黄緑 10YR 6/2	長石, 石英, 角閃石, 雲母	縄文後期・宿毛式
Fig.13-68	TR埋没土	縄文土器 有文漆鉢 胴部片	残高 2.05	沈線2, ミガキ ナデ	にぶい黄緑 10YR 5/3 黄灰 5YR 5/1	石英, 長石	縄文後期・宿毛式?

表5 土器・土製品観察表4

発掘番号	出土地点・層位	器物 部位	重量 (g)	文様・刺書 外面 内面 上裏	色調 外面 内面	胎土	備考
Fig.13-69	A-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 1.80	比繪1, 磨研縄文? ナデ	にぶい黄緑 10YR 5/4 黄褐色 # 6/6 黒雫	長石, 石英	縄文後期・雷電式?
Fig.13-70	A-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 2.20	比繪1, 縄文LR?, ナデ	にぶい黄緑 5YR 4/3 黒雫 7.5YR 3/1	長石	縄文後期・雷電式?
Fig.13-71	A-2・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 3.25	比繪3, 縄文LR? ナデ	灰黄 7.5YR 4/2 黄灰 2.5Y 4/1	長石, 石英	縄文後期・雷電式? 充満縄文
Fig.13-72	A-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 3.50	比繪2, 縄文RL ナデ?	橙 7.5YR 6/6 # # #	石英, 長石	縄文後期・雷電式?
Fig.13-73	B-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 2.40	沈積(家跡伴証), 縄文RL ナデ	橙 5YR 6/6 にぶい黄緑 10YR 5/3	長石, 石英	縄文後期・雷電式?
Fig.13-74	C-4・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 2.50	比繪1, 縄文RL, ミガキ ミガキ? (丁寧なナデ)	赤褐 2.5YR 4/6 明赤褐 5YR 5/6 黒雫	長石, 石英	縄文後期・雷電式?
Fig.13-75	A-2・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 1.80	比繪1, 縄文RL, ナデ ナデ	にぶい黄緑 10YR 6/4 黒雫 7.5YR 3/1	長石, 石英	縄文後期・雷電式?
Fig.13-76	C-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 2.90	比繪6, 磨研縄文? ナデ(ハラ型)	にぶい黄緑 10YR 6/4 # # 7/3	長石, 石英	縄文後期・平城式
Fig.13-77	A-3・TR	縄文土器 有文深鉢 煎餅片	残高 3.10	比繪2, 縄文RL, ナデ ナデ	黒雫 10YR 3/2 にぶい橙 7.5YR 6/4	石英, 長石	縄文後期・平城式
Fig.13-78	A-3・TR	縄文土器 深鉢 煎餅片	残高 2.20	縄文RL ナデ	暗黄 7.5YR 3/3 黒雫 10YR 3/1	石英, 雲母,	縄文後期・平城式
Fig.13-79	A-3・TR	縄文土器 深鉢 煎餅片	残高 2.50	縄文RL(原形伴証?), ナデ ナデ	にぶい黄緑 10YR 6/3 黄灰 2.5Y 4/1	長石, 石英	縄文後期
Fig.13-80	A-3・TR	縄文土器 深鉢 煎餅片	残高 4.05	比繪?2, ナデ ナデ(強い)	にぶい橙 7.5YR 5/4 # 10YR 5/3	長石, 石英	縄文後期?
Fig.13-81	Bトレンチ	縄文土器? 煎餅片	残高 5.45	ナデ, ハケ状擦痕 ナデ(粗く強い, ハケ状)	暗黄灰 2.5Y 4/2 # # #	石英, 雲母, 石英	縄文後期?
Fig.14-82	C-4・TR	弥生土器 甕 口縁部片	残高 2.10	ナデ ナデ	灰黄褐 10YR 4/2 # # #	チャート	弥生前期
Fig.14-83	A-3・TR	土器 甕 口縁部片	残高 2.90	ナデ ナデ	橙 5YR 6/6 # 7.5YR 7/6	石英, 長石,	古墳前期?
Fig.14-84	F-4・TR	土器 甕? 口縁部片	残高 4.10	ナデ, 押圧 押圧, ナデ	にぶい黄緑 10YR 6/4 橙 5YR 6/6 角閃石	石英, 長石,	古墳時代?
Fig.14-85	A-3・TR	土器 甕? 把巻部片?	残高 2.20	ナデ, 押圧 ナデ	明赤褐 10YR 6/6 # # #	長石	古墳時代?
Fig.14-86	A-3・TR	瓦 鉢? 口縁部片	残高 3.00	ナデ ナデ, ハラナデ	黄橙 10YR 8/4 黒雫 # 3/1	長石, 石英	
Fig.14-87	C-2・TR	青磁 碗 口縁部片	残高 2.50	縁線蓮弁文 無文	にぶい黄緑 10YR 5/4 黄褐 2.5Y #	長石, 石英	内外面施釉
Fig.14-88	C-3・TR	青磁 碗 体部片	残高 2.40	縁線蓮弁文 無文	にぶい黄緑 10YR 5/4 # # #	砂岩	内外面施釉
Fig.14-89	D-2・TR	土罐	全長 3.95 全幅 1.40 全厚 1.30 孔径 0.50 重量 5.20	ナデ, 不整	黄黄緑 10YR 8/4		
Fig.14-90	C-2・TR	土罐	全長 3.20 全幅 1.40 全厚 1.30 孔径 0.50 重量 5.70	ナデ	にぶい黄緑 10YR 7/3		

表6 石器・石製品・金属製品観察表1

押印番号	出土地点・ 層位	器種・器形	法量 (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.15-91	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 2.20 全幅 1.50 全厚 0.25 重量 0.40	完存。	チャート	縄文時代
Fig.15-92	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 1.55 全幅 1.45 全厚 0.30 重量 0.70	基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.15-93	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 2.00 全幅 1.70 全厚 0.40 重量 0.90	完存。	サヌカイト	縄文時代
Fig.16-94	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 1.10 全幅 1.15 全厚 0.25 重量 0.20	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.15-95	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 1.90 全幅 1.80 全厚 0.30 重量 0.50	完存。 尖端鈍い。	サヌカイト	縄文時代
Fig.15-96	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 2.05 全幅 1.40 全厚 0.20 重量 0.60	基部欠損。 扁平な剥片素材。	サヌカイト	弥生時代
Fig.15-97	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 1.80 全幅 1.25 全厚 0.15 重量 0.50	基部欠損。 主に片面調整。	サヌカイト	弥生時代
Fig.15-98	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 3.05 全幅 2.50 全厚 0.50 重量 4.60	尖端部欠損。 剥皮面多く残す。	頁岩	弥生時代
Fig.15-99	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 2.40 全幅 1.70 全厚 0.30 重量 1.40	基部欠損。 未製品?	頁岩	弥生時代
Fig.16-100	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 3.45 全幅 2.20 全厚 0.50 重量 3.70	尖端部欠損。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-101	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 2.90 全幅 1.70 全厚 3.50 重量 1.60	基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-102	ST1・Ⅳ層	石鏃	全長 2.50 全幅 1.60 全厚 0.50 重量 1.50	完存。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-103	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 1.85 全幅 1.65 全厚 0.25 重量 0.90	基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-104	ST1-SK1 埋土2分層	石鏃	全長 2.50 全幅 1.70 全厚 0.20 重量 0.90	基部欠損。 扁平な横長剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-105	ST1・Ⅲ層	石鏃	全長 2.70 全幅 2.60 全厚 0.25 重量 2.40	完存。 扁平な剥片素材。 片面調整。 特殊用途?	凝灰質頁岩	弥生時代

表7 石器・石製品・金属製品観察表2

押出番号	出土地点・層位	器種・器形	法量 (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.16-106	ST1・Ⅲ層	尖頭器	全長 7.25 全幅 2.55 全厚 0.45 重量 12.00	尖端部・基部欠損。 扁平な縦長剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-107	ST1・Ⅲ層	尖頭器	全長 5.15 全幅 2.90 全厚 0.25 重量 4.60	側縁部・基部欠損。 扁平な縦長剥片素材。 素材は同一打面で連続剥取。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-108	ST1・Ⅳ層	尖頭器	全長 3.35 全幅 2.65 全厚 0.35 重量 3.30	基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-109	ST1・Ⅳ層	スクレーパ	全長 3.90 全幅 3.05 全厚 0.25 重量 3.80	折損。 扁平な剥片素材。 主に片面調整。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.16-110	ST1・Ⅳ層	スクレーパ	全長 4.10 全幅 3.50 全厚 0.60 重量 10.20	一部欠損。 扁平な剥片素材。 側面残す。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.17-111	ST1・Ⅲ層	石錘	全長 7.90 全幅 5.40 全厚 1.90 重量 98.80	完存。 長軸両端部に打欠き。	砂岩	縄文時代?
Fig.17-112	ST1・Ⅲ層	石錘	全長 4.95 全幅 3.80 全厚 2.00 重量 53.80	完存。 長軸両端部に打欠き。	砂岩	縄文時代?
Fig.17-113	ST1・Ⅳ層	打製石槌丁?	全長 8.40 全幅 5.20 全厚 0.70 重量 45.30	折損。 板状剥片素材。 両側縁調整。	泥岩	弥生時代
Fig.18-114	C-3・Ⅱ-3分層	石鏃	全長 2.30 全幅 1.20 全厚 0.35 重量 0.90	基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-115	D-3・Ⅱ-2分層	石鏃	全長 1.40 全幅 0.95 全厚 0.35 重量 0.30	完存。	チャート	縄文時代
Fig.18-116	C-3・Ⅱ-2分層	石鏃	全長 1.85 全幅 1.45 全厚 0.30 重量 0.70	基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-117	A-4・Ⅱ-1分層	石鏃	全長 1.95 全幅 1.70 全厚 0.40 重量 0.80	基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-118	A-2・Ⅱ-2分層	石鏃	全長 2.05 全幅 1.20 全厚 0.20 重量 0.50	側縁部・基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-119	A-2・Ⅱ-1分層	石鏃	全長 1.70 全幅 1.40 全厚 0.25 重量 0.50	尖端部・基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-120	C-3・Ⅱ-3分層	石鏃	全長 1.60 全幅 1.20 全厚 0.30 重量 0.30	尖端部・基部欠損。	チャート	縄文時代

表8 石器・石製品・金属製品観察表3

押図番号	出土地点・ 層位	器種・器形	法量 (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.18-121	A-4・ II-2分層	石鏃	全長 1.20 全幅 1.40 全厚 0.30 重量 0.50	尖端部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.18-122	B-4・ II-2分層	石鏃	全長 1.35 全幅 1.15 全厚 0.35 重量 0.40	完存。	チャート	縄文時代
Fig.18-123	B-2・ II-1分層	石鏃	全長 1.50 全幅 1.45 全厚 0.30 重量 0.40	完存。 尖端部鋭い。	チャート	縄文時代
Fig.18-124	D-3・ II-2分層	石鏃	全長 1.50 全幅 1.60 全厚 0.45 重量 0.60	完存。	チャート	縄文時代
Fig.18-125	C-3・ II-3分層	石鏃	全長 1.65 全幅 1.00 全厚 0.20 重量 0.30	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-126	A-2・ II-2分層	石鏃	全長 1.30 全幅 1.30 全厚 0.30 重量 0.50	尖端部・基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-127	C-4・ II-1分層	石鏃	全長 1.15 全幅 1.20 全厚 0.20 重量 0.30	完存?	サヌカイト (風化顯著)	縄文時代
Fig.18-128	A-2・ II-2分層	石鏃	全長 1.90 全幅 1.70 全厚 0.30 重量 0.70	尖端部欠損。	サヌカイト (風化顯著)	縄文時代
Fig.18-129	C-3・ II-2分層	石鏃	全長 1.60 全幅 1.40 全厚 0.20 重量 0.40	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-130	C-3・ II-2分層	石鏃	全長 2.00 全幅 1.10 全厚 0.25 重量 0.40	基部欠損。	サヌカイト (風化顯著)	縄文時代
Fig.18-131	A-4・ II-2分層	石鏃	全長 1.40 全幅 1.10 全厚 0.25 重量 0.20	完存。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-132	C-4・ II-1分層	石鏃	全長 1.25 全幅 1.10 全厚 0.25 重量 0.20	完存。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-133	A-4・ II-1分層	石鏃	全長 1.05 全幅 1.10 全厚 0.25 重量 0.30	尖端部・基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-134	C-4・ II-2分層	石鏃	全長 1.00 全幅 1.40 全厚 0.20 重量 0.20	尖端部・基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-135	C-3・ II-3分層	石鏃	全長 0.95 全幅 1.05 全厚 0.20 重量 0.20	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代

表9 石器・石製品・金属製品観察表4

押印番号	出土地点・ 層位	器種・器形	長さ (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.18-136	A-2・ II-2分層	石鏃	全長 0.90 全幅 0.70 全厚 0.15 重量 0.10	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-137	C-4・ II-2分層	石鏃	全長 3.40 全幅 1.10 全厚 0.60 重量 2.20	完存。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-138	C-3・ II-1分層	石鏃	全長 3.80 全幅 2.00 全厚 0.80 重量 5.00	完存。 尖端部鈍い。	チャート	縄文時代
Fig.18-139	A-4・ II-1分層	石鏃	全長 2.60 全幅 1.90 全厚 0.50 重量 2.10	完存。 尖端部鈍い。	サヌカイト (風化顯著)	縄文時代
Fig.18-140	A-2・ II-2分層	石鏃 (石鏃?)	全長 2.40 全幅 1.65 全厚 0.20 重量 0.90	基部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.18-141	A-2・ II-2分層	有袂石鏃?	全長 3.15 全幅 1.85 全厚 0.70 重量 5.00	完存。	チャート	縄文時代
Fig.18-142	C-3・ II-2分層	スクレーパー	全長 6.45 全幅 3.40 全厚 0.75 重量 15.60	完存。 横長剥片素材。	サヌカイト (風化顯著)	縄文時代?
Fig.19-143	C-3・ II-2分層	石鏃	全長 2.50 全幅 2.00 全厚 0.30 重量 1.60	完存。 側皮面残す。	サヌカイト	弥生時代
Fig.19-144	A-4・ II-1分層	石鏃	全長 2.00 全幅 1.70 全厚 0.25 重量 0.80	基部欠損。	サヌカイト	弥生時代
Fig.19-145	C-4・ II-2分層	石鏃	全長 2.10 全幅 1.30 全厚 0.30 重量 0.80	基部欠損。 扁平な剥片素材。 両側縁片面調整。	サヌカイト	弥生時代
Fig.19-146	D-4・ II-2分層	石鏃	全長 3.20 全幅 2.20 全厚 0.55 重量 3.20	完存。	頁岩	弥生時代
Fig.19-147	C-4・ II-2分層	石鏃	全長 2.80 全幅 2.30 全厚 0.55 重量 3.40	尖端部欠損。	頁岩	弥生時代
Fig.19-148	B-4・ II-3分層	石鏃	全長 4.00 全幅 2.40 全厚 0.55 重量 5.20	完存? 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.19-149	D-3・ II-2分層	石鏃	全長 3.55 全幅 1.95 全厚 0.45 重量 3.00	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.19-150	C-4・ II-2分層	石鏃	全長 2.70 全幅 1.80 全厚 0.30 重量 1.60	完存。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代

表10 石器・石製品・金属製品観察表5

押図番号	出土地点・層位	器種・器形	法量 (cm)	調整等	石材	備考
Fig.19-151	C-4・II-2分層	石鏃	全長 2.60 全幅 2.10 全厚 2.50 重量 1.20	基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.19-152	C-4・II-2分層	石鏃	全長 2.50 全幅 2.15 全厚 0.40 重量 1.80	完存。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.19-153	D-4・II-1分層	石鏃	全長 2.60 全幅 1.60 全厚 0.30 重量 1.80	尖端部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.19-154	C-4・II-2分層	石鏃	全長 2.60 全幅 1.40 全厚 0.35 重量 1.10	完存。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.20-155	B-4・II-3分層	尖頭器	全長 4.00 全幅 3.30 全厚 0.30 重量 5.20	基部欠損？ 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.20-156	C-4・II-2分層	尖頭器	全長 5.60 全幅 3.10 全厚 0.40 重量 8.60	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。 ほぼ片面調整。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.20-157	C-3・II-1分層	尖頭器	全長 3.10 全幅 2.15 全厚 0.45 重量 3.30	基部欠損。 縦長剥片素材。 未製品？	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.20-158	A-4・II-2分層	尖頭器	全長 2.75 全幅 2.30 全厚 0.35 重量 2.60	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。	チャート	弥生時代
Fig.20-159	C-3・II-2分層	スクレーパ	全長 4.80 全幅 3.15 全厚 0.55 重量 11.30	完存？ 扁平な横長剥片素材。 尖頭部の破損品転用か？	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.20-160	C-3・II-2分層	スクレーパ	全長 4.05 全幅 2.80 全厚 0.45 重量 7.20	一端部欠損。 一端に親皮面残す。 尖頭器未製品？	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.21-161	C-4・II-2分層	有袂石器？	全長 7.40 全幅 3.50 全厚 0.85 重量 31.70	完存。 左側縁に調整？	泥岩	縄文時代？
Fig.21-162	A-2・II-2分層	石鏃	全長 8.20 全幅 6.40 全厚 2.45 重量 182.20	完存。 長軸両端部打欠き。	石英斑岩？	縄文時代？
Fig.21-163	B-4・II-2分層	石鏃	全長 6.55 全幅 4.10 全厚 1.95 重量 74.30	完存。 長軸両端部打欠き。	砂岩	縄文時代？
Fig.21-164	D-3・II-1分層	石鏃	全長 7.85 全幅 3.60 全厚 1.35 重量 72.70	完存。 長軸両端部打欠き。	泥岩	縄文時代？
Fig.21-165	C-3・II-2分層	石鏃	全長 5.50 全幅 4.30 全厚 1.40 重量 46.30	完存。 長軸両端部打欠き。	泥岩	縄文時代？

表11 石器・石製品・金属製品観察表6

押戻番号	出土地点・層位	器種・器形	法量 (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.21-166	C-4・ II-1分層	石鏃	全長 5.80 全幅 3.40 全厚 1.75 重量 43.30	一端部欠損。 長軸両端部打欠き。	砂岩	縄文時代?
Fig.21-167	D-4・ II-1分層	石鏃	全長 4.85 全幅 3.00 全厚 1.00 重量 25.90	完存。 長軸両端部打欠き。 左側縁に使用痕?	砂岩	縄文時代?
Fig.21-168	D-3・ II-2分層	叩石	全長 9.20 全幅 9.20 全厚 4.10 重量 493.30	完存。 周縁に敲打痕。	花崗岩	
Fig.22-169	B-4・TR	石鏃	全長 1.80 全幅 1.45 全厚 0.35 重量 0.70	基部欠損。	チャート	縄文時代
Fig.22-170	Aトレンチ	石鏃	全長 1.90 全幅 1.05 全厚 0.25 重量 0.30	完存。	サヌカイト	縄文時代
Fig.22-171	C-3・TR	石鏃	全長 1.40 全幅 1.50 全厚 0.20 重量 0.50	尖端部欠損。	サヌカイト	縄文時代
Fig.22-172	A-3・TR	石鏃	全長 1.30 全幅 1.20 全厚 0.25 重量 0.40	基部欠損。	サヌカイト?	縄文時代
Fig.22-173	C-3・TR	石鏃	全長 2.20 全幅 1.80 全厚 0.20 重量 0.80	基部欠損。 片面調整。 扁平な剥片素材。	サヌカイト (風化顯著)	弥生時代
Fig.22-174	C-3・TR	石鏃	全長 2.20 全幅 2.00 全厚 0.30 重量 1.30	完存。 両側縁片面調整。 扁平な剥片素材。 未製品?	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-175	C-3・TR	石鏃	全長 2.40 全幅 1.90 全厚 0.40 重量 2.20	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-176	Aトレンチ	石鏃	全長 2.20 全幅 1.65 全厚 0.20 重量 0.80	完存。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-177	C-4・TR	尖頭器	全長 2.10 全幅 2.80 全厚 0.30 重量 2.20	基部側欠損。 扁平な剥片素材。	チャート	弥生時代
Fig.22-178	Aトレンチ	尖頭器	全長 2.65 全幅 2.65 全厚 0.40 重量 4.20	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-179	C-3・TR	尖頭器	全長 3.15 全幅 3.00 全厚 0.60 重量 6.20	尖端部・基部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-180	C-4・TR	スクレーパ	全長 3.20 全幅 3.30 全厚 0.75 重量 10.90	基部側欠損。 扁平な剥片素材。 尖頭部?	チャート	弥生時代

表12 石器・石製品・金属製品観察表7

標図番号	出土地点・層位	器種・器形	法量 (cm) (g)	調整等	石材	備考
Fig.22-181	C-4・清博士	スクレーパ	全長 5.50 全幅 4.20 全厚 1.00 重量 34.60	完存? 磨皮面残す。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.22-182	D-2・TR	スクレーパ	全長 6.30 全幅 3.25 全厚 0.50 重量 10.40	一端部欠損。 扁平な剥片素材。	凝灰質頁岩	弥生時代
Fig.23-183	C-3・TR	石核	全長 8.80 全幅 7.40 全厚 3.00 重量 274.40	上下右方から横長剥片を剥取。 裏面・左側面は磨皮面。	頁岩	弥生時代
Fig.23-184	I層	石鏢	全長 5.60 全幅 4.05 全厚 1.70 重量 52.30	完存。 長軸両端部打欠き。 被熱により赤変。 被熱による小剥離?	砂岩	縄文時代?
Fig.23-185	D-4・TR	石鏢	全長 5.15 全幅 4.05 全厚 1.25 重量 38.60	完存。 長軸両端部打欠き。	泥岩	縄文時代?
Fig.23-186	D-3・TR	石鏢	全長 6.10 全幅 3.75 全厚 1.20 重量 34.60	完存。 長軸両端部打欠き。	結晶片岩?	縄文時代?
Fig.23-187	C-2・TR	石鏢?	全長 5.20 全幅 3.60 全厚 0.85 重量 20.10	完存? 長軸両端部打欠き。	結晶片岩?	縄文時代?
Fig.23-188	Aトレンチ	石鏢	全長 7.10 全幅 2.90 全厚 1.30 重量 40.40	完存。 長軸両端部打欠き。 被熱により赤変。	砂岩	縄文時代?
Fig.23-189	Bトレンチ	石鏢	全長 6.30 全幅 3.20 全厚 1.20 重量 31.40	完存。 長軸両端部打欠き。	泥岩	縄文時代?
Fig.23-190	C-4・TR	石鏢	全長 5.35 全幅 2.95 全厚 1.65 重量 39.10	完存。 長軸両端部打欠き。	泥岩	縄文時代?
Fig.23-191	表採	叩石	全長 10.50 全幅 9.10 全厚 6.55 重量 855.00	完存。 周縁部に敲打痕。	結晶片岩?	
Fig.23-192	表採	叩石	全長 10.90 全幅 8.35 全厚 4.10 重量 598.80	完存。 表裏面に敲打痕。	砂岩	
Fig.24-193	D-4・II-2分層	小玉	直径 0.60 全長 0.50 孔径 0.10 重量 0.20	完存。 上下端部平坦。 孔内面に線状研磨痕。	水晶	
Fig.24-194	A-2・II-2分層	寛永通宝	残長 1.35 残幅 1.20 全厚 0.15 重量 0.60	裏面上部に「文」。	銅錢	近世

写 真 图 版



調査前状況（北西より）



同 上（南東より）



調査状況・表土除去（西より）



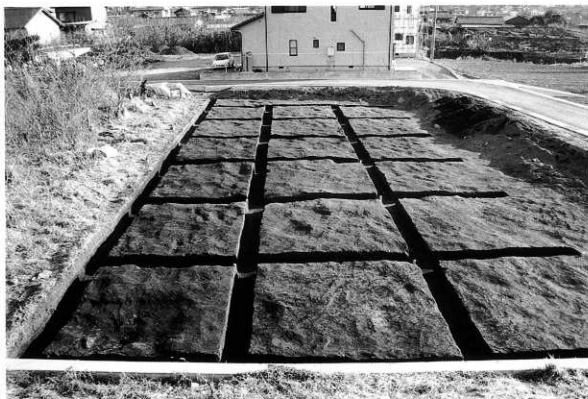
同 上（北より）



調査状況・トレンチ調査（北西より）



同 上（北西より）



トレンチ完掘状態 (北より)



同 上 (北西より)



調査状況・グリッド調査（南より）



同 上（東より）



調査状況・土壌選別（北西より）



Fライン南壁土層断面（南西より）



ST1 内堆積土層断面 (南より)



ST1 内ベルト除去状態 (南より)

PL 8



ST1 遺物出土状態（東より）



同 上（東より）



東壁土層断面（西より）



同 上（西より）



深掘りトレンチ（北西より）



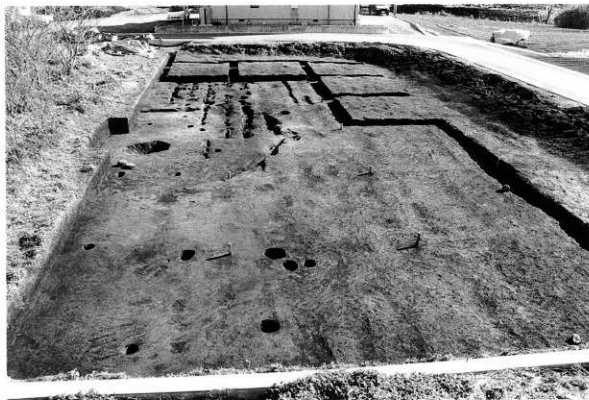
同上堆積土層断面（西より）



調査状況・遺構調査（南東より）



同 上（北東より）



遺構完掘状態（北より）



同 上（北西より）



ST1 完掘状態 (北より)



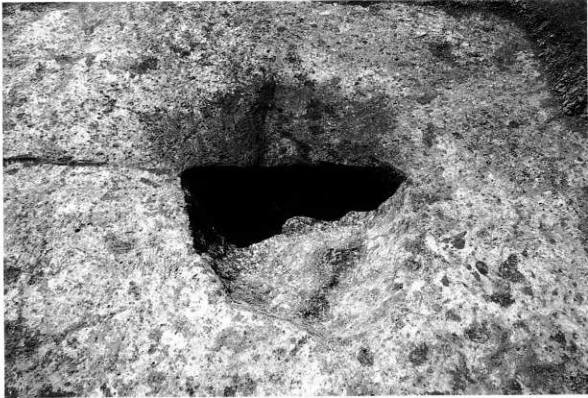
同 上 (北西より)



ST1 完掘状態 (南より)



ピット状遺構完掘状態 (北より)



ST1 - SKI 検出状態 (東より)



同上完掘状態 (東より)

報告書抄録

ふりがな	おながわ い せき							
書名	女川遺跡Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	越知町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第2集							
編著者名	曾我貴行							
編集機関	越知町教育委員会							
所在地	〒781-1301 高知県高岡郡越知町越知甲2562 TEL 0889-26-3400							
発行年月日	1999年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
女川遺跡	高知県高岡郡 越知町越知字 東屋敷甲824 番2	39403	030022	33度 31分 53秒	133度 15分 34秒	1997年 2月27日 3月31日	225	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
女川遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 中世 近世	竪穴住居跡 1 ピット状遺構 7	縄文土器、弥生土器、 土師器、土師質土器、 瓦器、青磁、土製品、 土錘、石鏃、石錐、 尖頭器、スクレーパ、 石核、石錘、叩石、 水晶小玉、寛永通宝		半円筒状ガラス製品 の帰属遺構を確認。 凝灰質頁岩（酸性凝 灰岩）使用の石器製 作跡を確認。		

女 川 遺 跡 II

(越知町埋蔵文化財発掘調査報告書第2集)

1999年3月

編 集	高知県越知町教育委員会
発 行	高知県高岡郡越知町越知甲2562
	電話 (0889)26-3400
印 刷	西村 膳 写 堂

